

2 令和5年度事業の実績

(1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 1,649千円

〔事業目的及び概要〕

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図り、市町村の社会教育主事等の資質・能力の向上を図るため、首長部局、企業、NPO法人、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管：東青教育事務所・下北教育事務所】
社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO法人、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。
- ア 東青地区(蓬田村)
- ＜地域課題解決スタートアップ研修会＞
 - 期日：6/27(火) ○会場：蓬田村ふるさと総合センター ○参加者数：10名
 - 内容：事業説明、ワークショップ形式による協議
 - ＜第1回実行委員会＞
 - 期日：7/14(金) ○会場：蓬田村ふるさと総合センター ○参加者数：11名
 - 内容：本事業の説明、目的の共有、村が抱える課題の明確化についての情報交換
 - ＜第2回実行委員会＞
 - 期日：9/20(水) ○会場：蓬田村ふるさと総合センター ○参加者数：11名
 - 内容：蓬田中学校 第2回避難訓練での第1回実践活動について、今後のスケジュールについて、その他について
 - ＜第3回実行委員会＞
 - 期日：12/19(火) ○会場：蓬田村ふるさと総合センター ○参加者数：11名
 - 内容：蓬田中学校・中沢自治会との第2回実践活動について、今後の活動予定、スケジュールについて(地域課題解決フォローアップ研修会及び会計監査等について)
 - ＜事業の実践1＞
 - イベント「避難所設営・運営(災害に備えて)」の開催
 - 期日：9/28(木) ○会場：蓬田村立蓬田中学校 ○参加者数：132名
 - 内容：蓬田中学校避難訓練と同日に実施し、避難訓練終了後、NPO法人県防災士会三浦一郎事務局長の講演を聞いた後、避難所スペースの設営体験(防災テントの設営及び段ボールパーティションの設置)を行った。
 - ＜事業の実践2＞
 - イベント「避難所設営・運営(避難所運営体験)」の開催
 - 期日：1/23(火) ○会場：中沢公民館(蓬田村) ○参加者数：45名
 - 内容：中沢自治会住民と蓬田中学校1年生が合同で実施した。前回に引き続き、NPO法人県防災士会三浦一郎事務局長の講演を聞いた後、災害時の避難所における避難者の受付体験及び防災テントの設営並びに段ボールパーティションの設置を共同で行った。
 - ＜地域課題解決フォローアップ研修会＞
 - 期日：2/26(月) ○会場：蓬田村ふるさと総合センター
 - 内容：東青地区実行委員会による実践報告及び質疑応答を行った。

イ 下北地区(大間町)

<地域課題解決スタートアップ研修会>

○期日：6/30(金) ○会場：大間町開発センター ○参加者数 19 名

○内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

○期日：7/18(火) ○会場：大間町役場 ○参加者数 8 名

○内容：実行委員長、副委員長の決定、活動内容及び計画について

<第2回実行委員会>

○期日：8/2(水) ○会場：大間町役場 ○参加者数 7 名

○内容：実行委員会の名称、会則の確認、各ブースでの活動内容について、今後の活動予定について、次回開催日時について

<第3回実行委員会>

○期日：8/30(水) ○会場：大間町役場 ○参加者数 7 名

○内容：実行委員会の名称及び開催名の決定、申請書の確認、各ブース活動内容の進捗状況、今後の活動予定について、次回開催日時について

<第4回実行委員会>

○期日：11/14(火) ○会場：大間町役場 ○参加者数 7 名

○内容：各ブース活動内容の進捗状況、大間高校へのボランティア依頼について、その他について

<第5回実行委員会>

○期日：12/4(月) ○会場：大間町役場 ○参加者数 8 名

○内容：「よりっとこ」イベントの成果及び反省・課題について、次年度の開催時期、課題改善、予算確保等について、その他について

<第6回実行委員会>

○期日：1/18(木) ○会場：大間町役場 ○参加者数 8 名

○内容：フォローアップ研修会の発表資料の検討について、その他について

※随時 SNS による意見交換を行った。

<事業の実践>

○期日：1/26(日) ○会場：大間町開発センター ○参加者数：151 名

○内容：「より良い郷土にしたい」という想いを共有する地域人財や企業・団体等が開催するイベントを企画し、実施した。

(1) 電源開発(株)大間現地本部：工作コーナー、エネルギー展示コーナーの運営を行った。

(2) 明治安田生命相互保険会社むつ大間営業所：骨密度測定や野菜摂取量測定、脳年齢チャレンジ測定を行った。

(3) 大間町地域づくり団体ツナグ：エアー遊具 4 台による子どもの遊び場の提供と絵本の読み聞かせを行った。

(4) 大間町地域包括支援センターくろまつ：Salon ano ano(マッサージ)の運営を行った。

(5) 大間不動産合同会社：フリーマーケットの開催と大間町食生活改善推進協議会による軽食の提供(塩おにぎりや豚汁)、大間高校ボランティアによる軽食の提供(アゲ魚っこを使った料理)を行った。

<地域課題解決フォローアップ研修会>

○期日：2/28(水) ○会場：大間町役場

○内容：下北地区実行委員会「大間郷土活性化委員会よりっとこ」による実践報告及び質疑応答を行った。

(2) キャリア教育の推進【6 地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】
ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

○内容：学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人財像を共有するため、各地区において会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、関係者同士による意見・情報交換を行った。

<東青地区>

- 期日：11/22(水)
- 場所：青森市立金沢小学校
- 内容：職業講話で協力していただいた企業に、青森の未来を担う子どもたちにどういったキャリア教育を行っていけばよいか、将来の仕事への職業観を考え、何が求められているかを地域、企業、実行委員のメンバーで話し合った。

<西北地区>

- 期日：11/7(火)
- 場所：鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校
- 内容：働く人との対話集会の第2部で参加企業、教職員、学校運営協議会委員、行政関係者等約20名で話し合いを行い、ネットワークの構築を図った。

<中南地区>

- 期日：8/25(金)
- 場所：弘前パークホテル
- 内容：地区内高等学校卒業予定者の地元就労についての情報交換を行うとともに、早期から健全な職業観・勤労観を育成するために、「今こそチャンス！！地元で仕事する魅力！」をテーマに講演とワークショップを実施した。
- 講師：特定非営利活動法人スポネット弘前 理事長、一般社団法人権利擁護あおい森ねっと 理事、一般社団法人みらいねっと弘前 代表理事 鹿内 葵 氏

<上北地区>

- 期日：2/16(金)
- 場所：十和田市商工会館1階大ホール
- 内容：十和田地区雇用対策協議会と共催で開催し、「若者の地元定着・離職率の改善の方法」をテーマに講演とワークショップを実施した。
- 講師：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長 米田 大吉 氏

<下北地区>

- 期日：7/12(水)
- 場所：むつグリーンホテル
- 内容：むつ商工会議所と連携して、「むつ下北地区高卒者雇用対策協議会」の第2部で、県立大湊高校キャリアデザイン部の担当教諭2名が、自校のキャリア教育、就職指導について情報提供した。

<三八地区>

- 期日：9/25(月)
- 場所：八戸市スポーツ研修センター
- 内容：県生涯学習課が主催した「学校と地域のネットワークづくり」と同時開催し、企業、学校関係者、行政関係者等との話し合いを通して、ネットワークの構築を図った。
- 講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき 氏

イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各実行委員会とも関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業の新規開拓を行った。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用を促進するために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

- 我が社は学校教育サポーター：新規登録企業 12社(登録予定も含む。)

<東青地区>

- 各校の職業講話の依頼時に説明した。

<西北地区>

- 学校に対しては登録企業の紹介を行い、学校・企業との連携を図った。また、企業に対しては訪問し、新規登録をお願いした。また、職業講話に参加した地元企業に対し、チラシ配布した上で登録を依頼した。

<中南地区>

○期日：6月～1月

○内容：学校6校、企業13社訪問

- ・新規登録企業の開拓をした。 3社
- ・企業周知の通信「キャリア教育ニュースレター第8号」を発行した。

<上北地区>

○期日：随時

○内容：訪問先小中学校にて「我が社は学校教育サポーター」登録企業を周知した。

<下北地区>

○内容：教育支援活動展示会にてポスターを展示して、「我が社は学校教育サポーター」のPRを行った。また体験出前授業(ユメココ教室)の新規の講師依頼の際に「我が社は学校教育サポーター」の説明を行うとともに、職業講話を依頼する際に登録を依頼した。

<三八地区>

○期日：10/7(土)～10/8(日)

○内容：八戸市立小中野公民館まつりで、「我が社は学校教育サポーター」登録企業及び活動内容を展示した。

ウ 教育支援活動展示会の開催

企業による教育支援活動を県民に広く周知することを目的とした「教育支援活動展示会」を実施した。

<東青地区>

○期日：1/12(金)～1/14(日)

○場所：アウガ1階駅前スクエア

○内容：東青地区16企業の活動をパネルで展示した。

<西北地区>

○期日：1/16(火)～1/26(金)

○場所：五所川原市役所「市民の土間」

○内容：地域で教育支援を行っている企業5社前後を紹介したものを掲示板に掲示した。

<中南地区>

○期日：9/26(火)

○場所：弘前市総合学習センター 2階大会議室

○内容：県教育委員会主催の「学校と地域のネットワークづくり(中南地区)」と同時開催し、研修会参加者(学校関係者、企業及び地域活動団体関係者、教育委員会関係者等)を対象に、企業紹介のパネル展示をした。

○参加企業等：12社

<上北地区>

○期日：7/27(木)

○場所：東北町未来館

○内容：県教育委員会主催の「地域学校協働活動研修会(上北地区)」において「我が社は学校教育サポーター」登録企業紹介パネルと上北管内企業による教育支援活動の紹介、上北地区実行委員会の取り組み事例紹介のパネルを展示した。

<下北地区>

○日時：7/5(水)～7/6(木)

○場所：むつ来さまい館 イベントホールA

○内容：11の事業所・団体が出展、下北教育事務所からの助言で地区小中学校教員対象の研修が開かれる開催日に合わせて同じ建物内で開催し、教員の方々に地域の事業所、団体による児童生徒への支援活動の周知を図った(※むつ市教育委員会 むつ来さまい館が後援)。

<三八地区>

○期日：9/25(月)

○場所：八戸市スポーツ研修センター

○内容：県教育委員会主催の「学校と地域のネットワークづくり(三八地区)」と同時開催し、参加企業等5社によるパネル展示を行った。

〔成果と課題〕

(1)の「社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決」では、各地区実行委員会の社会教育主事等が様々な方々とともに、実行委員会を組織し、地域課題の解決や地域の活性化を図るための事業を企画・実践した。

東青地区では、蓬田村教育委員会教育課の社会教育班職員が中心となり、村住民課、総務課、村社会福祉協議会、村連合自治会、地域包括支援センター、蓬田中学校、村消防団等の関係者が中心となる実行委員会「東青地区実行委員会」を結成した。本村の防災に関する主要な人財が一堂に会する機会を創出し、地域のネットワークをより強固に形成することを主な目的とした事業を企画し、実践した。

今後も、この活動をきっかけに、これからの蓬田村の将来を担っていく若者世代に特化した防災教育を実施したことで、今後の村の若者人財の育成と地域の持続的な防災力の向上を図ることができ良い機会となった。

下北地区では、大間町教育委員会の教育課職員も参加し、地域づくり団体、町地域包括センター、域内企業4社が主体となる実行委員会(大間郷土活性化委員会「よりっとこ」)を結成し、各団体同士のネットワークを構築しながら、地域住民が交流を図るための企画を開催することで、地域の活性化を推進していくことを主な目的に本事業を行った。

具体的な活動として、「より良い郷土にしたい」という想いを共有することを第一に考え、各団体の特性を生かした「健康」や「食」に関連する内容を出展することとした。就学前のこどもたちや小学生は、エア遊具で汗をかきながら、楽しく遊び場の提供や健康チェックコーナー(血圧測定や野菜摂取量の測定、脳年齢測定)、フリーマーケット、マッサージ、工作コーナーや軽食提供コーナーもあり、賑わいのある企画を開催することができた。また、企画には、高校生ボランティアの協力もあり、若者の協力を得ながら企画を運営することができた。今後も地域の活性化を図るべく、来年度も大間町において活動を行う予定である。

今後も、多様な地域人財及び他部局(まちづくり担当部局や福祉関係部局等)や他市町村と連携しながら、地域活性化や地域の課題等を解決するための事業を企画・実践し、社会教育主事の資質向上を図るために、持続的な組織運営に向けた支援を続けることが重要である。

(2)の「キャリア教育の推進」では、地元企業と学校のネットワーク会議において、各地区実行委員会がそれぞれ特色のある取組を実施した。

地元企業と学校のネットワーク会議では、中南・上北・下北地区においては、青森県高等学校長会協会及び青森県若年者就職支援センター(ジョブカフェあおもり)主催の会議と併催する形で実施し、教員の研修等の機会と同日・同会場で開催することにより、多くの教員に対して本事業の取組を理解してもらう機会となった。また、教育支援活動展示会では、当課主管の「学校と地域のネットワークづくり」や「地域学校協働活動研修」の中で実施することで、企業が実施している教育支援活動の具体的な取組を参加した教員に紹介できた地区も見られた。

来年度も6地区実行委員会に委託して事業を実施するが、他地区の取組への積極的な参加を促す等、より効果的な事業実施に向けて各地区の連携・協働体制を一層強化する必要がある。

子どもの読書活動推進事業 3,426千円

〔事業目的及び概要〕

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をするこどもたちを育成するため、こどもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

〔事業内容〕

(1) あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集(紹介文集)を32,000部、優秀作品周知ポスターを360部作成し、中学校、高等学校(特別支援学校中等部及び高等部を含む。)、図書館等に配付した。

○募集期間：7/3(月)～9/15(金)

○応募数：3,305点(中学生の部：33校981点、高校生の部：25校2,324点)

○優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	八戸市立市川中学校 1年 木村 結実 『風に恋う』(額賀 濤/著)
優 秀 賞	八戸市立江陽中学校 1年 石村 心乃佳 『1リットルの涙 難病と闘い続ける少女亜也の日記』(木藤 亜也/著) 県立三本木高等学校附属中学校 3年 村井 嵐 『水を縫う』(寺地 はるな/著) 八戸市立江陽中学校 3年 大島 穂音 『木曜日にはココアを』(青山 美智子/著) 八戸市立江陽中学校 2年 音喜多 亜子 『全力疾走するバカになれ~明るく、楽しく生きたい人に贈る75の言葉~』(勝俣 州和/著) 青森市立新城中学校 3年 元木 晴陽 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』(汐見 夏衛/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立柏木農業高等学校 3年 齊藤 龍太郎 『生きてさえいれば』(小坂 流加/著)
優 秀 賞	県立三沢高等学校 3年 駒沢 伶奈 『勿忘草の咲く町で 安曇野診療記』(夏川 草介/著) 県立八戸商業高等学校 2年 川畑 悠 『水を縫う』(寺地 はるな/著) 県立黒石高等学校 3年 浅利 夕蘭 『コーヒーが冷めないうちに』(川口 俊和/著) 県立鱒ヶ沢高等学校 3年 勝野 紫音 『やりたいことが見つからない君へ』(坪田 信貴/著) 県立青森西高等学校 2年 佐藤 美早希 『君たちはどう生きるか』(吉野 源三郎/著)

(2) 子どもの読書活動推進大会

広く県民がこどもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体でこどもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

○日時：12/3(日) 13:00~16:00

○場所：県総合社会教育センター

○参加者数：116名

○内容

ア 表彰式

令和5年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

- ・中学生の部及び高校生の部の最優秀賞及び優秀賞受賞者への表彰
- ・最優秀賞及び優秀賞受賞者による本の紹介

イ 講演

演題演題『本のある生活~私がこれまでに会った本~』

講師：作家 森 絵都氏 進行：フリーアナウンサー 境 香織氏

(3) 青森県子ども読書活動推進計画

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ、自主的に読書活動をするこどもたちを育てるため、各教育事務所の協力の下、こどもの読書活動推進計画の未策定市町村等に対し、計画策定が進むように働きかけを行った。

また、啓発小冊子「絵本で豊かな親子の時間」第7版を発行し、希望する団体等へ提供を行った。

[成果と課題]

「あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」は、中学生の部については33校から981点、高校生の部については、25校から2,324点の応募があった。学校の担当教師から

は「生徒達が読書を通して感じたこと、考えたことを共有する機会となっている。」「紙の本を手に取り、紹介したい箇所を葉を挟めながら、何度も読み返すきっかけとなった。」等、好意的な感想をいただいている。優秀作品集については、中学生・高校生の読書意欲向上につなげるため、今後も広く周知していく。

子どもの読書活動推進大会では、小説家による講演の他に「あおりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』」コンクールの表彰式と最優秀賞及び優秀賞を受賞した生徒による本の紹介を行い、県民に対し本事業の一環である取組を周知した。

子どもの読書活動推進計画については、教育事務所と連携しながら、未策定市町村等に対し働きかけを行った。今後も計画策定が進むように情報提供及び意見交換を行う。

啓発小冊子「絵本で豊かな親子の時間」については第7版を発行し、40の団体等に合計6,275冊の提供を行った。今後も多方面に周知し、広く提供できるようにしていく。

いじめ防止キャンペーン推進事業 7,441千円

【事業目的及び概要】

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

【事業内容】

(1) いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞4作品を選定した。

○募集期間：6/5(月)～8/31(木)

○応募数：11,573作品(小学校7,562作品、中学校3,477作品、高等学校442作品、特別支援学校88作品、一般4作品)

○受賞作品

優秀賞	けなすより いいとこみつけて みなえがお	青森市立新城小学校 1年 近村 欣真
	傷ついた 君の心に 気づきたい	中泊町立中里中学校 2年 成田 開
	教えてよ 君の苦しさ 半分んこ	弘前市立相馬小学校 6年 大畑 真樹
	「とめない」と そんな気持ちを 行動に	十和田市立東中学校 1年 三浦 莉子
	けしゴムで けせない ことばも あるんだよ	むつ市立奥内小学校 1年 立花 奏楽
	誰かがじゃない 君がやらなきゃ 変わらない	県立八戸中央高等学校 1年 島守 陽菜
審査員特別賞	人叩く リアルでネットで やっちゃ駄目	つがる市立森田小学校 6年 須藤 乃愛
	耳すませ 心にひびが 入る音	弘前市立新和中学校 3年 葛西 妃莉
	目に見えぬ 心の悲鳴に 耳をすませて	県立五所川原農林高等学校 2年 青山 桃子
	考えて 言葉の重さ 相手の思い	県立八戸第一養護学校高等部 1年 二川目 心寿

(2) テレビCMの制作・放送

ア 令和4年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送(4/6～4/7、5/8～5/10、8/24～8/25、8/28～9/1、9/4～9/5、1/15～1/19)。

イ 令和5年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送(3/19、3/21～3/22)。

【成果と課題】

いじめ防止標語コンクールでは、学校から多数の応募があり、各学校において応募した標語を教育活

動等にも活用していることから、学校におけるいじめ防止に向けた意識啓発につながる取組となっている。また、CM放送では、取組を周知することにより、いじめ防止に向けた県民の意識の高揚につなげることができた。

特別支援学校における家庭教育支援事業 707 千円

【事業目的及び概要】

障がいのある児童生徒の保護者等が、こどもの健やかな成長のために、障がいのある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

【事業内容及び結果】

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第一養護学校	5	10	36名	パン作り体験、事業所見学、ピラティス&ヨガ体験、講話(息子の「できる」を信じて～様々な取り組みで広がる世界～)
県立青森第二養護学校	3	6	27名	こぎん刺し教室、果物狩り、先輩保護者を囲んでの談話会
県立青森若葉養護学校	3	6	37名	施設見学、体験活動「パステルシャインアート」「布小物作り」
県立青森第一高等養護学校	2	4	8名	福祉に関する勉強会「障害福祉サービスの利用等について」
県立青森第二高等養護学校	4	9	43名	花植え、環境整備、茶話会、木製のカラトリー作り体験、二高養祭の準備、エアロビクスとリラクゼーション
県立盲学校	7	16	32名	花植え、地域の清掃活動参加、進路指導講話、盲導犬体験研修会、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動、iPad操作研修会
県立青森豊学校	3	5	61名	グラウンド整備、家族レクリエーション、コサージュ作り
県立浪岡養護学校	5	7	125名	陶芸体験「ランタン作り」、学校祭参加、ワークショップ「HSCって何だろう?」
県立弘前第一養護学校	2	7	38名	P.T.A施設見学会(卒業後の進路先の見学)、レジンのアクセサリ作り
県立弘前第二養護学校	8	23	130名	運動会観賞、公共施設見学、親子レクリエーション、進路講演会、こけしの絵付け体験、弘二養祭参加、福祉施設見学、クリスマスプレゼント贈呈
県立弘前豊学校	7	12	83名	親子レクリエーション、なかまの集い、地区研修会「こころとからだ元気になるピラティス」、陶芸体験「ランタン作り」、手話学習会、進路懇話会
県立八戸第一養護学校	4	11	36名	視線入力に関する研修会、美術館見学、心と体をリフレッシュ♪楽しいヨガ教室、合同研修会「～親なきあとの自立に向けて～今、大切な“備え”とは」
県立八戸第二養護学校	4	10.5	120名	普通救命救急講習会、給食試食会、障害基礎年金についての学習会、卒業生の保護者との座談会
県立八戸盲学校	3	6	9名	保護者交流会(学校行事への協力)、アロマクラフト作り体験
県立八戸豊学校	5	6	58名	P.T.A奉仕作業(運動会装飾、清掃、扇風機清掃)、手話・南部せんべい焼き教室
県立森田養護学校	3	10	21名	近隣地域公共施設における体験学習、ヨガ教室、お菓子の包装作業学習会
県立黒石養護学校	4	7	55名	黒石よされ講習会、こけしの絵付け体験、黒養祭準備、コサージュ作り

県立七戸養護学校	4	10	214名	福祉施設見学会、陶芸教室、県地区P連研修会「ヨガ教室」、県知P連研修会「防災教室」
県立むつ養護学校	5	8	115名	園芸教室、親子レクリエーション、父母学習会(障がい者の福祉に関する懇話会)
県立八戸高等支援学校	1	2	56名	進路学習会「卒業生の進路先について」
合計	延べ回数 82回 延べ時間 175.5時間 参加者数合計 1,304名			

[成果と課題]

同じ立場の保護者同士が、家庭教育学級の様々な活動を通して交流を深め、情報共有や情報交換をする機会となっている。また、こどもの進路や就労、卒業までに身につけさせておきたい力などについて、先輩の保護者のアドバイスを受け、学べる好機となっている。

事業実施の可否を含めて、各学校と相談・確認しながら、事業の一層の充実に努めていく必要がある。

地域と学校とのパートナーシップ強化事業[重点] 3,636千円

[事業目的及び概要]

県域における地域学校協働活動の更なる充実を目的として、これまでの事業により形成された人材とのつながりを活かした研修会等の開催や、地域学校協働活動推進員の配置促進を図ることなどにより、地域と学校のパートナーシップを強めるための取組を行う事業である。

[事業内容]

(1) 地域と学校の交流会

ア 地域活動者・企業が学ぶ場と情報交換会

「学校が望む地域との連携・協働」をテーマに、地域学校協働活動の先進事例等について学び、またそれぞれの取組などを情報交換して、学校との連携の在り方を模索した。

地区	期日	場所	参加者数
三八	7/18(火)	友の会福祉会館(八戸市)	12名
中南	7/19(水)	弘前市総合学習センター	20名

○対象：地域活動者・企業等

○講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき 氏

イ 学校と地域のネットワークづくり

学校関係者と、学校への協力を申し出ている企業や学校との連携を希望する地域活動者が一堂に会し、交流を深めながら互いの理解を促進した。(ワークショップ等で交流を図った。)

地区	期日	場所	参加者数
三八	9/25(月)	八戸市スポーツ研修センター	49名
中南	9/26(火)	弘前市総合学習センター	40名

○対象：地域活動者・企業等、小・中・高・特別支援学校教職員・地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員等

○講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき 氏

(2) 市町村地域学校協働活動支援

ア 地域学校協働活動研修

地域学校協働活動推進員の委嘱等について中心的な役割をする市町村教育委員会担当者及び教職員の理解を深めるため、教育委員会担当者や教職員等を対象とし、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文科省の動向、県内外の先進事例等を学ぶ研修会を開催した。

地区	期日	場所	参加者数
東青	8/9(水)	県総合社会教育センター	64名(10名)
西北	8/22(火)	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	58名(2名)
中南	7/4(火)	弘前市中央公民館相馬館長慶閣	73名(15名)
上北	7/27(木)	東北町コミュニティ・センター未来館	73名(7名)
下北	7/5(水)	むつ来さまい館	25名(8名)
三八	9/5(火)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	65名(11名)

※参加者数の()は、オンラインによる参加者数(内数)

- 対象：市町村教育委員会職員(地域学校協働活動担当者、コミュニティ・スクール担当者等)、小・中・高・特別支援学校教職員、地域学校協働活動推進員等
- 講師：スクール・コミュニティ研究会 代表 岸 裕司氏(東青・西北)
ゆめ☆まなびネット 代表 大谷 裕美子氏(中南・上北・下北)
ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之氏(三八)

イ 市町村地域学校協働活動相談支援

安定的な地域学校協働活動推進のために、市町村の本部整備や推進員配置、これらの有効な活用について、課員や統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネーターアドバイザー)が相談対応するほか、先行市町村等を仲介するなどして、課題解決のためのサポートを行った。

- 内容：地域学校協働本部の整備及び地域学校協働活動の推進に向けた相談対応、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた先進事例等の紹介等

○実績

- 5/18(木)第1回平内町地域学校協働本部運営委員会
対象：平内町立学校職員、社会教育関係者、PTA関係者、地域・ボランティア等関係者、地域学校協働活動推進員
- 5/23(火)五所川原市教育委員会地域学校協働活動研修情報交換会
対象：地域学校協働活動推進員
- 8/2(水)弘前市教育自立圏研修会
対象：学校運営協議会委員、地域コーディネーター
- 10/12(木)学区まなびい講座運営担当者研修会(弘前市)
対象：各学区まなびい講座運営委員長、関係小学校長、中央公民館職員
- 11/29(水)第2回地域学校協働活動に係る事務連絡会議(青森市)
対象：教頭または地域連携担当教員、地域学校協働活動推進員、協働活動サポーター
- 12/8(金)弘前市立松原小学校第3回学校運営協議会
対象：学校運営協議会委員、担当教職員
- 2/8(木)第2回平内町地域学校協働本部運営委員会
対象：平内町立学校職員、社会教育関係者、PTA関係者、地域・ボランティア等関係者、地域学校協働活動推進員

ウ CSマイスター派遣事業(文部科学省)プッシュ型派遣への対応

文部科学省の事業により、青森市、八戸市、平内町、鶴田町、藤崎町の5市町と、西北管内の高等学校を対象とした研修会にCSマイスターを派遣した。

○研修会の概要

- 9/20(水)青森市教育委員会主催研修会
講師：出口 寿久氏(北海道科学大学教授)
対象：教育委員会担当者、小中学校の管理職、CSディレクター
内容：CSの概要(法的根拠、必要性など)紹介とワークショップ体験(熟議の実際。ファシリテートの方法等)、質疑応答等
- 9/21(木)平内町教育委員会主催研修会
講師：出口 寿久氏(北海道科学大学教授)
対象：CS設立準備委員、教育委員会担当者
内容：CSの概要(法的根拠、必要性など)紹介とワークショップ体験(熟議の実際。ファシリテートの方法等)、質疑応答等
- 10/11(水)八戸市教育委員会主催研修会
講師：高野 睦氏(秋田県由利本荘市立本荘東中学校教諭)
対象：教育委員会教育長、職員(指導主事他)
内容：CSの概要(法的根拠、必要性、「任用に関する意見」等について)紹介とワークショップ体験(熟議の実際。ファシリテートの方法等)、質疑応答等
- 10/24(火)鶴田町教育委員会主催研修会
講師：高野 睦氏(秋田県由利本荘市立本荘東中学校教諭)
対象：教育委員会教育長、職員(指導主事他)
内容：「特性を活かした学校づくりと地域住民との連携」CSの概要(法的根拠、必要性

など)紹介とワークショップ体験(熟議の実際。ファシリテートの方法等)、質疑応答等

10/25(水)藤崎町教育委員会主催研修会

講師：高野 睦 氏(秋田県由利本荘市立本荘東中学校教諭)

対象：教育委員会教育長並びに担当者と学校評議員

内容：CSの概要(法的根拠、必要性など)紹介とワークショップ体験(熟議の実際。ファシリテートの方法等)、質疑応答等

11/15(水)県教育庁生涯学習課主催研修会

講師：出口 寿久 氏(北海道科学大学教授)

対象：西北地区県立学校の校長、教頭他

内容：CSの概要(法的根拠、必要性など)紹介と質疑応答等

(3) モデル県立学校への地域学校協働活動推進員配置

学校運営協議会を設置している県立学校のうち3校にモデル校として推進員を配置し、県立学校におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進と、教職員の働き方改革への効果等について、令和7年度に検証を行う。

○モデル校：県立黒石高等学校、県立森田養護学校、県立八戸高等支援学校
(学校運営協議会制度導入済みの県立学校より3校)

【成果と課題】

「地域活動者・企業が学ぶ場と情報交換会」では、地域と学校の連携の在り方や地域学校協働活動について学び、地域活動及び企業関係者が今後どのように教育支援活動を行っていくべきかについて理解を深めることができた。また、「学校と地域のネットワークづくり」では、学校関係者と地域及び企業関係者がワークショップ等を行いながら意見交換することで、交流を図ることができた。

地域学校協働活動研修では県内6地区計358名が参加した。今年度は市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員の参加者が増え、学校、地域との連携・協働の必要性やそれぞれの立場としての役割等について学ぶことができた。また、市町村教育委員会担当者、教職員、地域学校協働活動推進員等との意見交換を通して、共通理解を深められたことも大きな成果であった。

市町村地域学校協働活動相談支援では昨年度よりも支援依頼が増え、地域学校協働活動の推進やコミュニティ・スクールとの一体的推進に向けた関心の高まりが感じられた。一方、これまでの取組状況や、立場(教育委員会職員、学校管理職、地域住民等)によって、必要とする知識等が違ってくるが見えてきた。今後も、CSマイスターの助力を得ながら、課員や統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員が研修会等に出向き、各自自治体や学校のニーズに柔軟に対応できる支援体制を整えていきたい。

学校・家庭・地域連携協働推進事業 34,804千円

1 地域学校協働活動推進事業(県事業) 2,539千円

【事業目的及び概要】

地域全体で未来を担うこどもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

【事業内容】

(1) 会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を開催し、地域学校協働活動及び放課後子ども総合プランの推進を図った。

ア 地域学校協働活動推進委員会

○期日：2/9(金)

○場所：県立図書館4階 集会室

○委員

No.	氏名	所属等	備考
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 非常勤講師	委員長
2	桐村 豪文	弘前大学大学院教育学研究科 准教授	
3	會津 隆史	五所川原市立三輪小学校 校長	副委員長
4	富樫 克輝	八戸市立鮫中学校 校長	

5	横岡千和子	県PTA連合会 会長	
6	工藤知久子	青森市浦町中学校区学校運営協議会 CSディレクター	
7	沢田真由美	鶴田町 地域学校協働活動推進員	
8	木村 繁春	青森県立森田養護学校 地域学校協働活動推進員	
9	百川 弘通	青森県立黒石高等学校 地域学校協働活動推進員	
10	島脇 一夫	青森県立八戸高等支援学校 地域学校協働活動推進員	
11	秋庭 誠一	鶴田町教育委員会社会教育班 班長	
12	境 真宏	五戸町教育委員会教育課社会教育班 主事	
13	蒔苗 元	弘前市健康こども部こども家庭課 課長	
14	大塚 靖子	青森市福祉部子育て支援課 放課後児童支援員	
15	横山 栄子	名川なかよしクラブ 放課後児童支援員	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

○期日：6/21(水)

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室

○対象：市町村放課後子ども総合プラン担当者(社会教育主管課及び福祉部局)

○参加者数：65名

(2) 研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

○期日：6/2(金)

○場所：県総合社会教育センター 第1研修室

○対象：市町村教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等

○参加者数：67名(会場41名、オンライン26名)

○内容：講義 「地域と学校の連携・協働の推進について」

講師 檜葉町地域学校協働センター長

檜葉町教育委員会 指導主事 猿渡 智衛 氏

事例報告 「子どもたちの輝く未来応援団」～地域全体での子育てを目指して～

今別町教育委員会 主幹 大馬 義明 氏

今別町教育委員会 統括的地域学校協働活動推進員 工藤 清子 氏

「五戸町地域学校協働活動の取組について」

五戸町教育委員会社会教育班 主事 境 真宏 氏

「学校運営協議会と地域学校協働活動」

三沢市教育委員会生涯学習課 課長補佐兼生涯学習係長 柿崎 竜平 氏

イ 放課後子ども総合プラン支援員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

○回数：12回

○対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等

○参加者数：計1,082名

東青	前期	【期日】6/13(火)、14(水) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】137名 【内容】講義・演習「子どもに起きやすいけがや事故への手当てと予防」 日本赤十字社青森県支部 事業推進課長 山野内 博見 氏
	後期	【期日】9/12(火)、13(水) 【会場】県総合社会教育センター 【参加者数】104名 【内容】実技研修「レッツエンジョイ 自然大好き」 青森県立梵珠少年自然の家 研修課長 新山 隆男 氏 社会教育主事 土岐 正純 氏

西北	前期	【期日】 6/2(金) 【会場】 柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】 105名 【内容】 講義・演習「子どもの捉え方や気持ちの理解と支援」 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏
	後期	【期日】 10/5(木) 【会場】 柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」 【参加者数】 82名 【内容】 講義・実技研修「運動で子どもたちを元気に！」 一般社団法人BLUE ties Impression 代表理事 川戸 元貴 氏
中南	前期	【期日】 7/11(火) 【会場】 青森県武道館補助競技場 【参加者数】 46名 【内容】 実技研修「コーディネーショントレーニングで体を動かそう」 NPO法人日本コーディネーショントレーニング 認定普及員 乗田 俊子 氏
	後期	【期日】 9/13(水) 【会場】 弘前市中央公民館相馬館長慶園 【参加者数】 35名 【内容】 講義・演習「放課後の子どもたちの居場所づくりのために ～放課後子ども総合プランの意義と支援員の役割～」 岩手大学教育学部 准教授 深作 拓郎 氏
上北	前期	【期日】 6/7(水) 【会場】 六戸町文化ホール 【参加者数】 184名 【内容】 講義・演習「特別な支援を必要とする子どもの自主性・社会性を伸ばす支援のあり方～生きづらさを軽減しオーダーメイドの支援を」 青森県発達障害者支援センターDoors(県南地域) センター長 社会福祉士・公認心理師 分枝 篤史 氏
	後期	【期日】 10/30(月) 【会場】 小川原湖青年の家 【参加者数】 78名 【内容】 講義・演習「今日の『楽しい』がその子の10年後の未来につながると信じて～日常の延長線上に遊びのヒントがある～」 岩手県立児童館 いわて子どもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀 氏
下北	前期	【期日】 6/13(火) 【会場】 むつ市中央公民館 【参加者数】 84名 【内容】 講義・演習「子供の姿からはじめるよりよい支援」 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏
	後期	【期日】 10/18(水) 【会場】 むつマエダアリーナ 【参加者数】 73名 【内容】 講義「地域学校協働活動を支える支援員の役割、存在意義」 県教育庁生涯学習課 地域連携推進GM・主任社会教育主事 工藤 健夫 氏 実技研修「レッツ エンジョイ 運動遊び」 むつ市ウェルネスパーク インストラクター 黒田 英知 氏

三八	前期	【期日】6/8(木) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】83名 【内容】講義・演習「子どもたちの居場所づくりのために ～放課後子ども総合プランの意義と支援員の役割～」 岩手大学教育学部 准教授 深作 拓郎 氏
	後期	【期日】10/17(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】71名 【内容】実技研修「遊びのマイスターから学ぼう ～身近なものを使って楽しむ遊び講座～」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子 氏

(3) 統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員の配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネーターアドバイザー)を配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

<主な活動実績>

○情報提供等

- ・平内町地域学校協働本部運営委員会(R5. 5. 18、R6. 2. 8)
- ・五所川原市教育委員会地域学校協働活動研修情報交換会(R5. 5. 23)
- ・弘前市教育自立圏研修会(R5. 8. 2)
- ・学区まなびい講座運営担当者研修会(弘前市)(R5. 10. 12)
- ・第2回地域学校協働活動に係る事務連絡会議(青森市)(R5. 11. 29)
- ・弘前市立松原小学校第3回学校運営協議会(R5. 12. 8)

○情報発信

「みんながつながる 地域学校協働活動便り」を発行し、市町村教委、県立学校等へ配付した。第7号(R5. 6. 13)、第8号(R5. 9. 1)、第9号(R5. 10. 24)、第10号(R6. 1. 10)、第11号(R6. 3. 5)

○情報収集

「全国コミュニティ・スクール研究大会(鳥取県)」や「第2回CSタウンミーティング(鱒ヶ沢町)」等に参加し、全国の先進事例や自治体の現況等の情報収集にあたった。

【成果と課題】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症等の感染症拡大防止対策に適宜努めながら、当初予定どおり全ての会議、研修を実施し、研修には年間1,000名を超える参加があった。

13回の研修中、会場での対面方式をとる研修が12回であったが、受講の態様を考慮してオンラインと会場における対面方式を組み合わせるハイブリッド型の研修も1回行われた。対面という良さを活かし、時宜にかなったテーマ設定・実施内容とすることにより、参加者アンケートも満足度の高い結果となった。地域学校協働活動推進員や支援員等からのニーズも高く、その資質向上に資する研修として、継続が期待されている。

国の放課後児童対策パッケージ(令和5年度までは新・放課後子ども総合プラン。)等に対し、引き続き健康福祉部と連携しながら、市町村における課題解決、円滑な取組促進が図られるよう支援していく必要がある。

2 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助 32,265千円

【事業目的及び概要】

市町村が行う地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助を行う事業である。

【事業内容】

未来を担うこどもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行う体制を構築することが必要であることから、市町村が行う学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働の推進に要する経費について、県が補助金を交付した。

【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

20市町村、地域学校協働本部39本部、放課後子供教室70教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町
弘前市 平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 おいらせ町 むつ市

風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町

[成果と課題]

地域学校協働本部及び地域の実情に応じた仕組みの下で、地域の方々の参画を得て、多様な活動が展開されている。その中でも、放課後子ども教室は、中核市の八戸市、藤崎町、七戸町、横浜町、大間町において単独費で実施している教室数を含めると 21 市町村 81 教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援して必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業 2,566 千円

[事業目的及び概要]

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

[事業内容]

(1) 青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業(学習機会の提供や支援者の活動を推進する研修等)について協議した。

○構成：有識者、家庭教育支援者など 10 名

○回数：年 2 回

(2) 家庭教育学習テキスト「あおもり親楽プログラム」の作成・周知

家庭教育の学習を推進するため、「あおもり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを作成する。また、「あおもり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを関係各所へ配布した。

○体裁：A4 判小冊子「改訂版あおもり親楽プログラム」1・2・3 の増刷 900 部

(3) 家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、互いのつながりを深める研修会を県内 2 地区で開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

地区	期日	場所	参加者数	内容
東青	8/31(木)	県総合社会教育センター	23 名	講義：「今必要な家庭教育支援～子どもが育つために『私』ができること」 講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科 教授 差波 直樹 氏
中南	9/8(水)	県武道館	24 名	情報交換会

(4) 青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、市町村職員及び家庭教育支援関係者等のつながりを深める研修会を開催した。

○期日：12/15(金)

○場所：八戸市福祉公民館

○参加者数：27 名

○内容：講義・演習「ペアレントトレーニングで学ぶ 親と子の幸せなかかわり方」

講師 郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円 氏

(5) あおもり家庭教育応援フォーラムの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

5 年度事業の実績

- 期日：10/22(日)
- 場所：県総合社会教育センター
- 参加者数：73名
- 内容：ア 講演「ママ先生が伝える 幸せ子育てのコツ」
イ 質問コーナー「教えてママ先生 子育てQ&A」
講師 玉川大学教育学部 教授 大豆生田 啓友 氏

- (6) 祖父母向け孫育て研修会の開催(県地域婦人団体連合会へ委託)
家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母だからこそできる孫との関わり方、家庭教育の今日的課題等に関する研修会を開催した。

地区	期日	場所	参加者数	内容
中南	11/28(火)	黒石公民館	68名	講演：『『祖父母向け孫育て』 ～今時の孫育て～』 講師：(一社)青森県助産師会 孫育てチーム 蛭名 えり子 氏 宮本 由美子 氏
三八	12/3(日)	田子町中央公民館	51名	

- (7) 読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成(県読書団体連絡協議会へ委託)

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、合計181名が受講した。そのうち、親子ふれあい読書アドバイザーとして新たに12名を登録した。(累計登録者数：525名)

地区	期日	場所	参加者数	講師
東青	10/28(土)	海峡の家「ほろづき」	11名	親子ふれあい読書アドバイザー 千葉 敦子 氏 今別町読み聞かせ団体 こでまりの会
西北	11/1(水)	日本海拠点館	27名	青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏
中南	10/13(金)	平川市文化センター	43名	弘前市おはなしるんるん代表 齋藤 眞琴 氏 工藤 光子 氏 青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏
上北	9/23(土)	十和田市民図書館	48名	語りの会「こま草」 阿部 智留恵 氏 菊池 佳子 氏 佐々木 しん 氏 高橋 芳子 氏 他 3名
下北	9/9(土)	むつ市中央公民館	10名	青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏
三八	11/21(火)	八戸市福祉公民館	42名	八戸市読書団体連合会 読書部会 前田 敏子 氏 青森県読書団体連絡協議会 副会長 西村 恵美子 氏

[成果と課題]

家庭教育の今日的課題に対応するために作成した「改定版 あおもり親楽プログラム1～3」の活用促進を図るため、リーフレットを作成し、県内幼稚園、保育所(園)、認定こども園、学校等へ配布した。本プログラムを活用した研修会は、昨年度並の件数であった。今後も市町村教育委員会や各学校のP

TA研修会等での活用促進に向けて周知を継続し、「あおもり親楽プログラム」及び「あおもり家庭教育アドバイザー」の活用を促す手立てを講じる。

「あおもり家庭教育応援フォーラム」については、地域全体で家庭教育を支えることの重要性等を多くの県民に啓発することができた。実施時期や周知手段、実施方法、メイン講師の選定等を検討しながら、より広く啓発活動を進められるよう工夫する。

「青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会」では、家庭教育支援関係者の他、行政職員、幼稚園・保育所職員、教員等、家庭教育支援に関わる様々な立場の方が参加し、家庭教育の今日的な課題について学習するとともに、演習や情報交換などを通して支援者同士の互いのつながりを深めた。家庭教育支援者同士のネットワークづくりの重要性から、来年度より年2回(2地区)の開催を予定している。

「家庭を支える連携・協働セミナー」では、今年度は東青・中南地区において、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性等を学習する場を設け、地域における家庭教育支援の充実を図った。本セミナーは、今年度をもって廃止し、今日的な課題を学ぶ機会については、「青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会」に包括させることとしている。

県総合社会教育センター

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 995千円

【事業目的及び概要】

大学生が在学中に専門的な研修(コミュニケーション、コーチング等)を受講し、一定のスキルを獲得した上で、中学生・高校生を対象にワークショップを企画運営してもらい、社会人としての実践力を身につけるための一助とする。

また、中学生・高校生には、ワークショップで、少し年上の大学生と自分の今と将来等について「カタル」ことにより、自分自身と向き合うためのきっかけづくりとする。

ワークショップの開催を通して、参加者全員が自らの夢や目標に向かい、主体的に行動できる人財の育成に繋げるとともに、双方のキャリア形成のサポートに資する事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 中学生及び高校生の意欲を引き出し、自分自身の見つけ直しにつながる、大学生によるワークショップ「キャリアサポ」(高校企画)、「Jr. キャリサポ」(中学校企画)の実施

ア 実施校数 17校(高等学校16校、中学校1校)

イ 参加生徒数 1,988名(高校生1,863名、中学生125名)

ウ 延べ参加大学生数 654名

No.	期日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
1	8/22(火)	県立七戸高等学校	1学年(3クラス86名)	32名
2	8/24(木)	県立弘前南高等学校	1学年(5クラス195名)	57名
3	8/25(金)	県立北斗高等学校	2・3学年(9クラス121名)	51名
4	8/29(火)	県立三本木農業恵拓高等学校	1・2学年(7クラス219名)	58名
5	8/31(木)	県立浪岡高等学校	1学年(2クラス18名)	16名
6	9/1(金)	県立大間高等学校	1・2学年(4クラス83名)	30名
7	9/5(火)	野辺地西高等学校	1学年(3クラス45名)	27名
8	9/6(水)	県立大湊高等学校	1学年(4クラス106名)	36名
9	9/8(金)	県立六ヶ所高等学校	1・2学年(2クラス68名)	32名
10	9/11(月)	県立黒石高等学校	1学年(5クラス139名)	46名
11	9/14(木)	中泊町立中里中学校	全学年(5クラス125名)	38名
12	9/19(火)	県立鱒ヶ沢高等学校	全学年(3クラス26名)	21名
13	9/21(木)	柴田学園高等学校	1学年(5クラス165名)	50名
14	2/14(水)	八戸工業大学第二高等学校	1学年(8クラス149名)	40名
15	2/20(火)	県立青森南高等学校	2学年(5クラス186名)	48名
16	2/22(木)	県立青森中央高等学校	1学年(5クラス191名)	44名
17	3/7(木)	県立柏木農業高等学校	2学年(4クラス66名)	28名

(2) オンラインワークショップの実施

ア オンライン企画 11/25(土) 参加大学生69名

※全員がオンラインで参加

(3) キャリア形成の支援

ア 大学生会議 4回(5/13(土)、7/16(日)、12/17(日)、3/8(金))

イ 合同研修会(11/24(金)) 参加者 11校 14名 (高校生スキルアッププログラムと共催)

○講演:「未来の大人と未来を創る」

講師: 皇學館大学 現代日本社会学部教授、一般社団法人「未来の大人応援プロジェクト」 代表理事 岸川 政之 氏

○事例紹介: 発表者 県立七戸高等学校 実習講師 佐藤 未来 氏

野辺地西高等学校 教諭 太田 智博 氏

ウ 大学生対象研修会の開催

○基本研修(計4回) 受講者数 192名

○ワークショップ演習(計4回) 受講者数 180名

○中学校対応研修(計3回) 受講者数 38名

○応用研修(計2回) 受講者数 12名

【成果と課題】

今年度は高等学校16校、中学校1校の計17校でワークショップ「キャリアサポ」を実施した。大学生の研修内容を整理した。重複した内容を統合し、日時設定を工夫したことで、大学生が参加しやすい環境となり参加大学生の増加に繋げることができた。

これまで、年間1校ずつ実施してきた中学校企画について、高校同様一定の教育効果があったといえる。年間1地区1校のため認知度が低い状況が続いている。

今後も、これまでの事業内容の継続を基本としつつ、実施校の実態や要望に合わせた、よりコンパクトかつ教育効果の高いワークショップになるよう改良していく。

なお、令和6年度から2年に渡り、試行的に3地区3校の中学校企画の実施を検討する。

高校生スキルアッププログラム推進事業 150千円

【事業目的及び概要】

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

(2) 合同研修会の実施

「合同研修会」の開催(大学生とカタル! キャリア形成サポート事業と共催)

ア 期日: 11/24(金)

イ 場所: 県総合社会教育センター

ウ 対象: 県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員

エ 参加者: 11校 14名

オ 事業説明・情報交換: 県総合社会教育センター職員

(3) 評価サービス

参加校数・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	奨励証交付者数	認定証交付者数
東青	9校	743名	14名	21名
西北	4校	485名	2名	2名
中南	3校	186名	6名	6名
上北	2校	24名	1名	4名
下北	3校	1,106名	2名	6名
三八	6校	1,888名	31名	11名
合計	27校	4,432名	56名	50名

(4) 県民カレッジとの連携

事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学者数 1,222名

[成果と課題]

令和3年度に高校担当教員の負担軽減を図るとともに、高校生が取り組みやすくなるようマニュアルを改正したほか、継続的に学校外学修活動に関する情報提供を行った結果、年々、奨励証および認定証交付者数が増加している。(前年度比11人増)

今後も、より多くの高校生に参加してもらえるよう情報提供を継続するほか、認定申請者数の増加に対応するため、要項、マニュアルおよび申請様式の改善を行い、更なる負担軽減につながる取り組みを行う。

青森で生きる未来人財育成事業 970千円

[事業目的及び概要]

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われるボランティア活動に派遣し、異年齢交流などの多様な体験活動に参加させる事業である。

[事業内容及び結果]

(1) ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流などの多様な体験活動実施のため、様々なボランティア活動について扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数	動画再生回数
1	6/11(日) 14:00~15:00	テーマ:「ボランティア活動」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 主事 岩井 雄太郎 氏	67名	110回
2	6/25(日) 14:00~15:00	テーマ:「災害ボランティア」 青森県社会福祉協議会地域福祉課 課長代理心得 木村 亨 氏	54名	121回
3	7/9(日) 14:00~15:00	テーマ:「国際ボランティア」 JICA青森デスク 国際協力推進員 阿部 翔太 氏	48名	69回

(2) ボランティアチーム員の登録者数及び派遣、コーディネート先

(令和5年度登録者の居住地)

[単位:人]

青森市	蓬田村	五所川原市	つがる市	弘前市	平川市	十和田市
16	1	2	2	6	1	8
三沢市	野辺地町	六戸町	東北町	六ヶ所村	おいらせ町	むつ市
2	1	1	1	1	3	1
東通村	八戸市	三戸町	五戸町	〔計 18市町村〕		
1	14	1	1			

団体名	活動名及び活動内容	回数/人数
青森スポーツクリエイション株式会社	ホームゲーム運営/競技運営会場設営・撤去	2/2
農園カフェ日々木	Cars & Coffee in Towada 2023/接客・販売	1/4
Family café あづま〜る	Family café あづま〜る/子育てサロン手伝い	4/4
日本人財発掘育成協会	ギビングツリー/プレゼント受け渡し	1/2
平川市教育委員会	こつこつ教室/学習支援	1/1

[成果と課題]

ボランティアチーム養成講座については、1時間という短時間でのオンライン講座であることやアーカイブ受講ができることから、県内どの地域からでも学校単位もしくは個人で受講できるなど、高校生にとってオンライン講座は有効な手段のひとつであった。ボランティアチームへの登録者数は、昨年度の55名に対し、63名と増加した。派遣、コーディネートについては、派遣数9回、派遣人数はのべ13名であった。

課題として、新たなボランティア活動受入団体が増えたものの、各市町村教育委員会及び市町村 NPO 活動関係担当部署とのネットワークが形成されていない。そのため、定期的に事業活用の協力を求めな

がら連携を強めていく。さらに、受講生どうしの交流の場を講座内に取り入れ、受講生相互のネットワークづくりに努める。

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

〔事業目的及び概要〕

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組むための方策の研究を目的として、高校生・大学生・専門学校生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)
- (2) 団体の指定

	団体名	校種	主な活動内容	人数
社会参加活動	キャリアサポートクラブ コンソーシアム(キャリサ ポ連合)	大学	・「大学生とカタル! キャリア形成サポ ート事業」へのボランティア参加 ・スキル向上イベントの企画 ・県内大学生参加交流会の企画	718名
	Lesta(レスタ)	高校 大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・小中学生対象の学習支援 ・発達障がい等についての研修	22名
	青森大学三味線部(あおし ゃみ)	大学	・異年齢交流活動の企画、運営 ・伝統芸能継承活動の企画、運営 ・スキル向上のための練習、講習会	16名
	よさこいチーム彩華	大学	・青森県内のよさこい団体を対象としたイ ベントの企画、運営 ・異年齢交流活動の企画、運営 ・伝統芸能継承活動の企画、運営	4名
創作活動	確原色	高校	・青森市内の高校生を主体としたイベン トの企画、発表	9名

- (3) 団体の活動に対する支援

- ア 研修室等使用料の減免
- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供(生涯学習フェア等)
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認(「協力 青森県総合社会教育センター」など)

- (4) 研究のための代表者会議の開催

〔成果と課題〕

今年度は、青少年社会参加活動モデル団体として4団体、創作活動モデル団体として1団体を指定し、主に研修室等使用料の減免や協力名義使用の承認等の活動に対する支援を行った。コロナ後、「活動を再開したいが方法がわからない。」「場を失った。」等活動に対する情報提供やアドバイスを求める団体も多かった。

代表者会議では、各モデル団体の代表者及び役員等参集者を拡大して行った。各モデル団体の活動状況報告と団体同士の横のつながりを強化する演習を行ったことで、学生団体の活動を持続的に推進するために必要な支援のあり方について研究材料を蓄積することができた。

来年度は、モデル団体同士の横のつながりを更に強化することで、活動を活性化させるとともに、ど

のような支援をすれば、各モデル団体が持続的に活発に活動できるか、支援策を研究していく。

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

〔事業目的及び概要〕

学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組む目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 期日：11/16(木)
- (2) 場所：県総合社会教育センター
- (3) 対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員、地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員等
- (4) 受講者数：49名
- (5) 事業内容
 - ア 講義：地域とともにある学校づくり ～コミュニティ・スクールと地域の未来～
講師 CSマイスター、高校と地域の協働・共創 研究所代表、一般社団法人まなびのみなと代表理事 取釜 宏行 氏
 - イ 事例報告：「地域とともにある学校づくり」に向けた県内事例の紹介
県立黒石高等学校、県立森田養護学校
コーディネーター CSマイスター、高校と地域の協働・共創 研究所代表、一般社団法人まなびのみなと代表理事 取釜 宏行 氏

〔成果と課題〕

今年度は高等学校の学校運営協議会委員でもあるCSマイスターを講師とし、コミュニティ・スクールに関する制度の根本的な仕組みについて、社会や学校の変化、地方創生の流れとも関連付けながら解説する講義を聴き、コミュニティ・スクールへの理解を深めるとともに、今後求められる「学校と地域の協働」について具体的なイメージを持つことが出来た。

また、コミュニティ・スクールを実効性ある取組とするための前提が、「関係者一同が、育てたい児童・生徒像や身に付けたい資質・能力を熟議によって共有していること」であることを、グループワークをとおして理解することができ、受講者に有意義な研修機会を提供することができた。

今後は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進していくために、教員と地域学校協働活動推進員だけではなく、学校運営協議会委員も一緒に参加して学べる研修機会を創出して行くことが望ましく、周知方法や取組内容について検討する必要がある。

あおもり家庭教育力向上事業 896千円

〔事業目的及び概要〕

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人財を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり家庭教育アドバイザー養成講座
 - ア 場所：県内2地区 中南地区(弘前総合学習センター)
下北地区(下北文化会館)
 - イ 回数：両地区6回
 - ウ 受講者数(1回以上の受講者数)：37名(中南地区18名、下北地区19名)
 - エ あおもり家庭教育アドバイザー登録者：15名(中南地区8名、下北地区7名)
 - オ 内容：家庭教育支援講座・演習(全6回：6～11月)

回	開催地区 期日	内 容
1	中南地区 6/15(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 氏

	下北地区 6/21(水)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 氏
2	中南地区 7/11(火)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 スクールカウンセラー 岩田 彩子 氏 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 7/25(火)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 スクールカウンセラー 岩田 彩子 氏 演習 「あおもり親楽プログラムⅠ」 進行 県総合社会教育センター職員
3	中南地区 8/8(火)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 社会福祉法人 清光福祉会 城東保育園 園長 三浦 テツ 氏
	下北地区 8/2(水)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 学校法人星美学園 幼保連携型認定こども園 星美幼稚園 園長 關 洋子 氏
4	中南地区 9/7(木)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来 准教授 高橋 多恵子 氏 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 9/12(火)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏 演習 「あおもり親楽プログラムⅡ」 進行 県総合社会教育センター職員
5	中南地区 10/19(木)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 氏 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 10/3(火)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 氏 演習 「あおもり親楽プログラムⅢ」 進行 県総合社会教育センター職員
6	中南地区 11/9(木)	演習 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 11/15(水)	演習 「あおもり親楽プログラムⅣ」 進行 県総合社会教育センター職員

(2) あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

ア 期日 : 9/9(土)9:30~12:15

イ 実施方法: あおもり家庭教育アドバイザーを対象としたオンライン講座

ウ 受講者数: 12名

エ 内容 : 今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

講義 「家族のコミュニケーション」

講師 柴田学園大学生生活創生学部 こども発達学科 助教 萩臺 美紀 氏

情報交換

(3) あおもり親楽プログラム普及活動

「あおもり親楽プログラム」を活用した研修会等に、あおもり家庭教育アドバイザーを派遣する。

- ・派遣数 14 回 延べ派遣人数 28 名
- (4) あおもり家庭教育アドバイザー登録情報の管理
- (5) あおもり家庭教育アドバイザーの活用

【成果と課題】

家庭教育支援の現状や課題に沿った講義や「あおもり親楽プログラム」の演習を含めた講座を開催することで、受講者の学ぶ意欲に応えることができ、高い満足度を得ることができた。また、家庭教育支援チーム・子育て支援団体等の活動状況の見学は、地域の活動を知るよい機会にもなった。受講者のうち、あおもり家庭教育アドバイザーへの登録申請可能な方は 16 名で、15 名から申請を受け、認定されたことは、家庭教育支援者として活動したいという意欲の表れと捉えている。

あおもり家庭教育アドバイザーの派遣においては、「あおもり親楽プログラム」と合わせて周知したり、アドバイザーの活用の幅を広げたりすることで、派遣依頼が増えてきている。

あおもり家庭教育アドバイザーとして登録後、活動する機会や場所が少なく、登録した人財を生かし切れていない状況がある。あおもり家庭教育アドバイザーを市町村教育委員会や各地区の子育て支援団体に繋げる等、より実践的に地域の力となって活躍できるよう支援していきたい。

家庭教育支援動画制作普及事業 3,826 千円

【事業目的及び概要】

子育てに対する不安や悩みを解決する糸口とし、家庭教育の充実を図ることを目的として、子育て情報を動画により発信する事業である。

【事業内容及び結果】

- (1) 家庭教育支援動画制作普及委員会の設置

○委員

	氏名	所属等
1	川内 規会	青森県立保健大学 教授
2	松谷 泰英	県教育庁生涯学習課 学校地域連携推進監・課長代理
3	吉田 圭子	青森県子ども家庭支援センター 部長 (指定管理者 未来へつなぐネットあおもりグループ)
4	横岡 千和子	青森県 P T A 連合会 会長
5	遠藤 弥生	あおもり家庭教育アドバイザー

- (2) 家庭教育支援動画制作普及委員会の開催

ア 6/12(月) 委託業者の審査・選定

イ 2/14(水) 次年度に向けてのテーマ等意見を述べる(書面開催)

- (3) 家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの制作(委託業者制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、以下の動画やCMを作成した。

ア 虫歯予防 子どものうちから身につけよう!

イ Z世代のネットリテラシー

ウ 「考える力」を伸ばせる子育てスキル

エ 子どもの悩みと心のケア

オ 子どもの体のよりよい成長 ～家庭で楽しく運動～

カ 親子の絆を育む ～絵本の読み聞かせ～

キ 「あおもり子育てネット」CM

- (4) 家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの放映・配信

12月1日より Youtube への配信を開始し、県総合社会教育センターホームページにも反映した。

12月1日～1月31日の期間、以下の放映・広告を実施した。

ア RAB青森放送にて、毎朝5:50～6:30に、「あおもり子育てネット」CMを計62回放映。

イ YouTubeでの「あおもり子育てネット」CM広告を298,487回表示。

ウ Facebookでの「あおもり子育てネット」CM広告を139,970回表示。

エ Instagramでの「あおもり子育てネット」CM広告を72,709回表示。

(5) あおもり子育てネットのポスター・チラシの制作

あおもり子育てネットに関するポスター・チラシを制作し、県内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校、子育てに関する各関係機関、大型商業施設等へ12月上旬より順次発送し、周知した。

[成果と課題]

教育の原点である家庭の教育力を高めることにつながる内容となるよう委託業者と打合せを重ね、家庭教育支援動画を制作することができた。気軽に観てもらえること、視聴者に興味をもってもらえることをねらい、5分の動画を6本制作、15秒のCMを1本制作したが、より広く県民に見てもらいやすい支援動画の形を今後も模索していくとともに、家庭教育を支えるためのサイト「あおもり子育てネット」の周知にも力を入れていく。

家庭教育相談事業 396千円

[事業目的及び概要]

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 対象 : 乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族
- (2) 実施方法 : 電話相談・週3回 月・水・木曜日(祝日・年末年始を除く)13:00~15:00
メール相談・24時間受付
- (3) 場所 : 県総合社会教育センター電話相談室
- (4) 対応内容 : 発育・発達、しつけ、対人関係などのこどもに対する悩みや家庭教育全般について
- (5) 相談体制 : 家庭教育相談員が対応
- (6) 相談件数 : 32件(電話相談30件、メール相談2件)

[成果と課題]

相談件数の総数は、昨年度に比べ減っている。特にメール相談が減っていることから、家庭教育支援動画制作普及事業とも関連づけながら、「あおもり子育てネット」の存在が県民の目に触れるよう周知に力を入れる。相談者の話に寄り添い、受容しながら聴くことで、相談者の悩みを軽減し、行動変容につながるような対応ができた。相談内容が複雑化・深刻化しているため、今後、家庭教育相談員のスキルアップや適切な専門機関への紹介等が求められることから、家庭教育相談員と相談の対応の仕方について検討したり、研修等で対応方法を学んだりしていきたい。

また、相談業務に当たる者の研修として、今年度は青森県警察本部生活安全部生活安全企画課少年補導職員を招いての講義を受け、今留意すべきことを学んだ。これにより相談業務に当たる者の資質向上とともに相談機関の連携強化となった。今後も、情報収集等に努め、より相談者の心情に寄り添える体制を整えていく。

県立図書館

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[事業目的及び概要]

こどもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

[事業内容及び結果]

図書セットの内容		利用対象	前期		後期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 市 町村内 巡回図 書セッ ト	(1)小学校	低学年	41	3,340	40	2,340
		中学年	43	3,480	41	2,300
		高学年	40	3,440	40	2,340
	(2)中学校	中学校	15	760	15	660
	(3)読み聞かせ絵 本児童書等	幼稚園・保育所等	55	6,780	50	3,000
(4)大型絵本	幼稚園・保育所等	58	1,775	48	490	
2 学習支援セット	小・中学校、高等 学校、特別支援学 校、市町村立図書 館等	8	647	7	470	
3 ミニセット	市町村立図書館 等(一部、高等学 校・特別支援学校 を含む。)	30	872	19	538	

[成果と課題]

学校や市町村立図書館等への支援を継続的に行うことができている。

学習支援セットについては貸出数増加につながるよう利用方法について周知していく必要がある。引き続き新しい本を利用してもらえるように、毎年度一定数、図書セットの内容更新を進めていく。

県立梵珠少年自然の家

県立梵珠少年自然の家主催事業 1,615千円

(1) 看板事業

[事業目的及び概要]

小学生から中学生までの幅広い年代の「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育てていく事業である。

[事業内容及び結果]

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
9歳チャレンジキャンプ～ひとりでできるぞ～	7/15(土)～ 7/17(月)	小学3年～ 小学4年 の児童	24名	ダンボール基地作り、野外活動(アドベンチャーゲームほか)、キャンドルサービス、炊事体験、思い出クラフト
夏の7days キャンプ～自転車と川下りで仲間とともにゴールを目指す真夏のチャレンジ!～	8/5(土)～ 8/11(金)	小学5年～ 中学3年 の児童生徒	20名	自転車隊列移動、ラフティング、トレッキング、テント泊、野外炊事、りんごもぎ体験、花火大会、煎餅焼き体験、思い出クラフト
冬の3days キャンプ～かまくら基地をつくって冬を楽しもう～	1/12(金)～ 1/14(日)	小学4年～ 中学2年 の児童生徒	25名	かまくら基地作り、野外活動(チューブそり、スノーシューハイク)、屋内活動(館内QRゲーム)、炊事体験、思い出クラフト

7歳わんぱくキャンプ～寒さに負けないぼんじゅキッズの冬遊び～	2/17(土)～ 2/18(日)	小学1年～ 小学2年 の児童	29名	ぼんじゅスノーランド作り・遊び、屋内活動(ぼんチャレンジピック)、炊事体験、思い出クラフト
--------------------------------	---------------------	----------------------	-----	---

〔成果と課題〕

看板事業は、いわゆる「こども事業」として、小学生から中学生までの一貫した年代を対象として計画した。近年、参加者及び保護者からの関心度は非常に高く、全ての事業において定員を上回る応募があり、一例として「9歳チャレンジキャンプ」では、24名の募集に対して124名の応募があった。このような関心度の高さは、安心・安全に行うための綿密な事業実施計画、常に新しい企画を盛り込んだ事業内容、セミナーとして位置づけてきた大学生・高校生のボランティアスタッフの対応の良さなどが大きく影響しているということ、参加者や保護者のアンケート調査からうかがうことができた。

本来であれば、応募者全員を受け入れて事業を実施したいところであるが、施設の規模や、職員のマンパワー不足等が原因で、応募者全員を受け入れることができない現状が課題であるため、実施回数や定員を増やすための方法などを、今後の検討課題としていきたい。

(2) 養成事業

〔事業目的及び概要〕

当施設利用団体の引率者や高校生・大学生などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
施設利用団体事前打合せ研修	(全体会) 4/14(金) (個別研修会) 利用日の14日 前までに実施	令和5年度利用 予定団体の引率 者	(全体会) 33名	(全体会) 講義、説明、活動プログラム 体験(野外活動、屋内活動、創 作活動)
自然体験活動ぼんじゅ ボランティアセミナー 【必修】 (1)入門セミナー (2)ふりかえりセミナー (3)実践レポート 【選択】 (4)9歳チャレンジキャン プ (5)夏の7days キャンプ (6)冬の3days キャンプ (7)7歳ワンツーカーキャン プ	実施日は各 事業を参照 (1)5/13(土) (2)3/9(土)	高校生及び 大学生	(1)36名 (2)14名 (3)8名 (4)12名 (5)5名 (6)6名 (7)12名	各事業は実施期間に応じて 単位が付与されており、7単 位以上取得したものは「ぼん じゅマスターボランティア」、 10単位以上取得したものは 「指導補助員」としてそれぞ れ認定する。 【対象事業での活動内容】 ・管轄グループの活動支援、 グループメンバーの体調管 理及び安全管理 ・自主企画立案と運営 ・キャンプ等の野外活動にお ける、基本的な知識や技術 を習得するための研修や施 設ボランティアとしての連 携を深めるための実習
ぼんじゅ出前講座	通年実施 【各回即日】 ※直接指導 は11月～ 3月のみ	小・中学校、各種 学校、青少年教 育団体、幼児施 設等	2,008名	対象の団体が開催する各種 行事(事業)において、直接指 導又は間接指導を行う。 なお、派遣職員の旅費は無 料とし、活動材料費や用具運 搬費は団体の負担とする。

〔成果と課題〕

養成事業は、実施2年目となる「施設利用団体事前打合せ研修」について、研修を必要とする人がより効率的に行うことのできる研修に進歩したという意見が、研修に参加した引率者のアンケート調査からも多く聞かれた。

「自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー」は、主催事業(看板事業)ごとに事前のボランティアスタッフ打合せを綿密に行うことにより、事業当日は、明るく模範的な態度で参加者に接することができ、参加者の満足度向上につながった。しかしながら、登録のみで一度もセミナーに参加していない登録者もいたため、参加の機会を増やすための手段の検討が必要である。

「ぼんじゅ出前講座」は、繁忙期に実施している間接指導が定着しつつあり、利用数が増加した昨年度並みの成果をあげることができた。

(3) 親子事業

〔事業目的及び概要〕

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
春を楽しむサン day ～五感を使って、春の自然を楽しく学ぼう～	4/29(土)	小・中学生を含む保護者とその家族	145名 (39家族)	野外活動(春の自然観察)、野外炊事(カートンドック)、創作活動
ファミリースプリング キャンプ ～家族で初めてのキャンプ体験をしてみませんか～	5/27(土)～ 5/28(日)		76名 (21家族)	テント泊、野外炊事(ダッチオープン料理、ライスクッカー料理)、野外活動、キャンプファイヤー体験、創作活動
自然体験ぼんじゅフェスタ～学・創・食・遊の体験ブースで梵珠の秋を満喫しよう～	10/22(日)		87名 (27家族)	ダッチオープン体験、ホットサンドメーカー体験、たき火・火起こし体験、本格リース作り体験、創作プログラム体験、遊びリンピック、自然ふれあいハイク、館内食体験、セルフカフェ
冬をいろどるクラフト day～クリスマス・お正月飾りを親子でつくろう～	12/11(日)		100名 (27家族)	クラフト①「ミニ門松」 クラフト②「森の羽子板」 クラフト③「クリスマスフォトフレーム」 クラフト④「クリスマスきになる木」 ※その他、昼食提供やセルフカフェの開設あり
冬を楽しむホワイト day～親子で白銀の世界へとびだそう～	2/4(日)		76名 (23家族)	野外活動①(ミニ雪灯籠作りなど選択活動)、館内炊事、野外活動②(チューブそり遊びなど自由活動)

〔成果と課題〕

親子事業は、「ファミリースプリングキャンプ」以外の事業をイベント形式の即日開催とし、なるべく多くの参加者を受け入れられる内容としたことにより、昨年度よりも参加者数が少ない事業はあったものの、応募した全ての家族を受け入れられたことは成果であった。また、「ファミリースプリングキャンプ」は、夏から春に実施時期をずらしたことにより、夏に集中する主催事業の分散化につながり、担当する研修課職員の負担軽減にもつながった。

新規の親子が参加することはもちろん、リピートして参加する親子の満足度も上げていけるよう、自然体験活動を中心とした企画やプログラムの精選・開発等をしていくことが必要不可欠であると考えている。

(4) 学習・生活習慣支援事業

〔事業目的及び概要〕

小学生から中学生までの「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中での体験活動を行いながら、主体的に学んだり、規則正しい生活を送ったりする活動をとおして、その後の学校・家庭生活に役立てていこうとする基礎的態度を育んでいく事業である。

〔事業内容及び結果〕

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
ぼんじゅネイチャー クラブ	① 7/22(土)	小学3年～ 小学6年 の児童	① 13名	① カブトムシトラップ、ホテル観察 ② 水中生物の観察 ③ 秋の植物観察 ④ ネイチャークラフト作り
	② 8/19(土)		② 10名	
	③ 10/14(土)		③ 4名	
	④ 11/18(土)		④ 4名	
ぼんじゅウィンタースクール	12/25(月)～ 12/27(水)	小学4年～ 中学2年 の児童生徒	11名	学習タイム、館内食、歯みがきタイム、野外活動タイム(雪灯籠作り、スノーシューハイク、雪上運動会)、フリータイム

〔成果と課題〕

今年度は試行的な実施となったため、目標とする参加者数には達しなかったが、参加した児童生徒の満足度は高く、自然体験活動を満喫できた様子が、参加者のアンケートなどからもうかがうことができた。また、事業に対応する研修課職員をシフト制としたことにより、職員の負担軽減にもつなげることができた。

事業内容や参加者の満足度は高い結果を得られたため、令和6年度は、年度始めに配布する「イベント情報」等にも本事業を掲載し、広く周知していくことによって、より多くの参加者を参集できればと考える。

県立種差少年自然の家

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) 340千円

〔事業目的及び概要〕

年長児・小・中学生が自然の中で家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましいこどもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などの学習機会の提供をする事業である。

〔事業内容〕

(1) 自然と遊ぼう

活動名	期 日	対 象	参加者数	内 容
たねさしワールド 「春を感じて」	5/14(日)	年長児・ 小・中学生 とその保護 者	97名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」①②③④ ※4回開催	7/1(土)		119名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラフト作り、磯遊び 他 ※9/2、9/3は荒天のため、館内活動となった。実施内容は、ニュースポーツ、キーホルダーづくり、海の創作活動 他
	7/2(日)		113名	
	9/2(土)		108名	
	9/3(日)		133名	
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/15(日)		109名	秋の自然を楽しもう ・フィールドビンゴ、モビール制作 他
たねさしワールド 「冬の季節を感じ て」 ※2回開催	12/2(土)		56名	・クリスマスリースづくり
	12/3(日)	71名		

たねさしワールド 「エンジョイ！ 雪遊び」①② ※2回開催	2/3(土)	4歳以上の 幼保・小・中 学生とその 保護者	109名	冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、せんべい焼き、 ぐにゃぐにゃ凧あげ、こま回し 他
	2/4(日)		119名	
たねさしワールド 「こども大作戦」 ①② ※2回開催	2/24(土) ～25(日)	小学3年 ～4年	116名	こどもだけでとまってみよう ・仲間づくり、レクリエーション、夜の森 探検、創作活動 他
	3/2(土) ～3(日)	小学1年 ～2年	120名	

(2) 子どもの祭典

事業名	期 日	対 象	参加人数	内 容
おいでよ！ サマーキャンプA	7/29(土) ～30(日)	小学5年～ 中学3年	37名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー
おいでよ！ サマーキャンプB	8/5(土) ～6(日)		24名	・追跡ハイキング ・火おこし体験 他
わくわくどきどき ウインターキャン プ	12/25(月) ～27(水)		26名	・冬の野外テントでの宿泊体験 ・野外副次 ・星空観察 ・ボンファイヤー ・発見ウォーク ・花炭づくり 他

〔成果と課題〕

自然と遊ぶの事業は、主に4歳以上のこどもから中学校3年生までの親子、家族同士が三陸復興国立公園及びその周辺の四季折々の豊かな自然の中で、春は潮風トレイルウォークをしながら「ビーチコーミング」「海鳥ウォッチング」等、夏は八戸南浜漁港(種差漁港周辺)で「いかだ・カヌー遊び」「磯遊び」「サンドクラフト」、秋は自然の家周辺で「フィールドビンゴ」「焼きいも作り」「モバイル制作」等、冬は館内で「クリスマスリースづくり」などの活動プログラム等、四季を通して、親子の絆や家庭や仲間との交流を深めていた。また、「こども大作戦」では、こどもたちだけで宿泊しながら「なかよしタイム」「ランタン作り」「星空ナイトハイク」「こども体験ツアー(ツリークライミング 他)」などの自然体験プログラムを通して、異年齢集団同士で交流を深めたり、仲間と協力し合ったりして自分や相手の良さに気付き、成就感や満足感をもたせる良い機会となった。どの事業にも、たくさんの応募者があり、抽選になることもあったので、今年度は事業回数を増やしたり、参加人数を増やしたりしたが、それでも抽選になった事業もあった。

次年度は今年度以上に人気のある事業の定員を緩和するなどの対応をして、多くの利用者に自然体験活動や創作活動をしてもらいたいと考えている。

子どもの祭典の事業の「サマーキャンプ」は多くのこどもたちに参加の機会を与えたいため、1泊2日で2回実施し、小学生から中学生まで幅広い異年齢集団での活動となった。「野外炊事」「キャンプファイヤー」「追跡ハイク」などの活動プログラムでは仲間と教え合ったり、励まし合ったりする姿が随所に見受けられ、一人一人に成就感・満足感のあるものとなった。「ウインターキャンプ」では、活動プログラムである「野外炊事」「発見ウォーク」「ボンファイヤー」「花炭スノードームづくり」の自然体験活動・創作活動が実施できた。特に、炊事活動は用具類の取り扱いに苦勞していたが、班ごとに役割を決めて協力して料理作りと後始末をするなど仲間意識が向上し、連帯感が強まった。また、「花炭スノードームづくり」では、お互いに協力し合いながらスノードームをつくるなどほほえましい光景が見受けられた。

自然体験活動支援事業 308千円

〔事業目的及び概要〕

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、こどもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に出向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小・中学校等の教職員及び青少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

[事業内容]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10～3月 *6～9月は 原則として 実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童館、 公民館、放課後児童 クラブ、青少年団体 や成人団体 等	155 団体 13,519 名	種差少年自然の家のプログラムの中 で出前対応可能なもの (せんべい焼き、フォトフレーム、ど んぐりアート、動物マグネット、たね さし万華鏡、ミニ門松 他)
自然体験活動 研修会	6/3(土) ～4(日)	小学校・特別支援学 校教諭、市町村教育 委員会職員、高校 生、ボランティアの 会 他	68 (34)	ネイチャーゲーム、ツリークライミ ング、ランタン作り、ナイトハイク、野 外炊事、避難・救助訓練(海活動)、AED 操作法 他

[成果と課題]

自然体験活動出前講座は、昨年度よりも依頼が増え、保育園、幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、公民館、児童館、放課後児童クラブ、子ども会、市町村教育委員会行事、障害者地域生活支援センターなど多岐にわたった。活動プログラムでは、「南部せんべい焼き」「木の実の遊び」「ニュースポーツ」「どんぐりアート」「ミニしめ飾り」「昔遊び」などの要望が多かったが、モルック、ペタンクなどのニュースポーツの道具や用具の貸出しも多くなり、各団体の指導者が道具等を借りてこどもたちに支援していることがうかがわれる。今後とも貸出し出前について周知していきたい。来年度もまた、施設に來られない団体向けに自然体験活動出前講座の利用促進に向けてチラシなどで周知していきたい。

自然体験活動研修会は、中堅教諭等資質向上研修の受講者、市町村教育委員会社会教育担当者、宿泊学習や教育学習で入所する小・中学校の教職員、文化施設職員、種差ボランティアの会員の参加があり、1日目は「ネイチャーゲーム」「ツリークライミング」「ランタン作り」「野外炊事」「ナイトハイク」を実施したが、参加者からのアンケートには、「とても充実した内容だった。こんなに自然の中で過ごしたりアクティブに活動したりするのが初めてだった。」「こどもと関わる仕事をしているが、自らが楽しいと思えることが大切だと感じている。」などとあり、自然体験活動を通して、基礎的な知識や技術を十分に習得できた。2日目は、「いかだ遊び」「磯遊び」における人命救助の仕方や津波を想定した避難の仕方など、いざという時の対処の仕方を学び参加者にとってこどもたちを引率するうえで貴重な研修となった。

在学少年宿泊指導者研修

[事業目的及び概要]

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

- 期日：4/27(木)～28(金)
- 場所：種差少年自然の家
- 対象：令和5年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員

[事業内容]

- 講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方
- 実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法
- 演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

[成果と課題]

今年度は参加者は53名で、学校事情等により部分参加となったがそれぞれの事情をふまえて対応することができた。「社会教育施設としての少年自然の家の役割と利用の仕方」「事前打ち合わせ等の書類の作成と変更点」(講義)や夜の自然体験活動である「ボンファイヤー」「ナイトハイク」「キャンドルファイヤー」や創作活動、ニュースポーツなどの実習では「焼き板クラフト」「火おこし」「アドベンチャーゲーム」「ネイチャーゲーム」などに熱心にも意欲的に取り組んだり、海活動での「いかだ遊び」「磯遊び」を通して避難場所と経路の確認などをしたりして、宿泊学習での引率者としてこどもが安全に安心して指導できるための必要な知識や技能を学ぶことができ有意義な研修となった。

親子で学ぶ防災キャンプ事業 73 千円

【事業目的及び概要】

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害時における実践的な防災力・減災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

【事業内容】

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
親子の絆 「防災キャンプ」	9/23(土) ～24(日)	幼・小・中学生 と保護者、市立 公民館長	84 (42)	・人命救助システムについて ・防災講話 ・テント設営 ・炊き出し体験 ・救命入門コース講習会

【成果と課題】

「親子で学ぶ防災キャンプ」事業は、種差少年自然の家が津波の避難所となっていることから毎年9月に開催している。今年度は「救命入門コース講習会」を適切に実施する観点から10組30名としたが、参加申し込み人数が68名となったため、抽選をし13組35名の参加とした。活動プログラムの「人命救助システム」では、陸上自衛隊八戸駐屯地の隊員が講師をつとめ、「土のうの作り方」の実習、「油圧式カッター」など人命救助に使用する機器の見学・体験などにより、子どもたちも興味をもって生き生きと活動できた。「防災講話」では、講師の防災士が災害で連絡がとれなくなった際の公衆電話の使い方などを、クイズを交えながら分かりやすくお話いただいた。また、八戸東消防署鮫分署の署員の方々による「救命入門コース」としての心肺蘇生法・AEDの使用法の講習、日用品を活用した応急措置として毛布を担架としてとして使用する実習を行った。どれも防災のための専門的な知識・体験ができるものばかりで、良い活動となった。しかし、参加対象年齢を小学生以上と設定して募集したので、31名中10歳未満が11名にのぼり、防災に関心のある大人の方々も参加している中で、どうしても小さい子どもたちに合わせて活動せざるを得なかった。今後は、募集対象を小学校3年生以上とし、もう少し一般向けの内容にしていくことも考えたい。

(2) 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

県生涯学習課

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P53 (1) 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成に掲載)

若者の社会参加促進事業 1,018 千円

[事業目的及び概要]

ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

また、若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体(以下、「若者団体等」)が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。

[事業内容]

(1) 困難を抱えるこども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を種差少年自然の家、梵珠少年自然の家等にて、それぞれ3回ずつ実施した。

<梵珠会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/8(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：6名

○内容：ニュースポーツ、野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：9/16(土) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：5名

○内容：梵珠ふれあいハイク、野外炊事、ニュースポーツ 他

第3回自然体験・交流塾

○期日：1/27(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：8名

○内容：就労体験・ボランティア活動、創作活動 他

<種差会場>

第1回自然体験・交流塾

○期日：7/22(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：24名

○内容：せんべい焼き、創作活動、ニュースポーツ 他

第2回自然体験・交流塾

○期日：9/30(土) ○会場：種差少年自然の家等 ○参加者数：25名

○内容：磯の生物観察、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

○期日：2/17(土) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：22名

○内容：就労体験・ボランティア活動、創作活動 他

<自然体験・交流塾協力団体等連絡会議>

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(梵珠会場)

○期日：6/20(火) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：5名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(種差会場)

○期日：7/10(月) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：7名

○内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(梵珠会場)

○期日：3/1(金) ○会場：梵珠少年自然の家 ○参加者数：7名

○内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について
第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議(種差会場)

○期日：3/8(金) ○会場：種差少年自然の家 ○参加者数：9名

○内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

(2) 若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者団体同士のつながり、地域とのつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

<研修会の開催>【サンノヘエールへ委託】

(下北地区)

第1回研修会

○期日：8/23(水) ○会場：オンラインにて実施 ○参加者数：4名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について
第2回研修会

○期日：9/28(水) ○会場：オンラインにて実施 ○参加者数：4名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

(中南地区)

第1回研修会

○期日：9/2(土) ○会場：estowa ○参加者数：7名

○内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について
第2回研修会

○期日：10/4(水) ○会場：estowa ○参加者数：7名

○内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

両地区合同プランの企画・実践発表会

○若者団体が1団体となったため、合同プランの企画・実践発表会は中止。

<企画事業の実践>

(下北地区)【大間町地域づくり団体ツナグへ委託】

○期日：12/17(日) ○会場：大間町勤労青少年ホーム ○参加者数：110名

○内容：地域に子育て世代が室内で自由に過ごせる場所が少ないため、親子で楽しめるイベント「ふわふわ広場～MAX～」を若者団体に企画し、実施した。

(1) エアー遊具5台によるトンネル&トランポリン、滑り台を活用した遊び場の提供

(2) ビニールボール遊びができる場所の提供及びビニールボールの貸し出し

(3) 館内で自由に遊びできる場所の提供

(4) ゲーム大会の開催(玉入れ、大玉ボール運び、的入れ)

(5) 協力団体による手作りクッキーの配布

(中南地区)【「Glänz」へ委託】

※平川市「Glänz」へ委託し、当初事業を実施していたが、事業継続が困難となった旨の連絡が委託期間内にあり、実施状況を確認した結果、委託要項に基づき「Glänz」との委託契約を解除したため、事業は実施されなかった。

[成果と課題]

「自然体験・交流塾」では、両会場ともに全3回を晴天時のプログラムで実施するできた。両会場ともボランティアや支援団体職員が積極的に参加者とコミュニケーションをとったことで、参加者同士の会話も弾み、明るい雰囲気の中、活動を進めることができた。梵珠会場では、「今日は、少し緊張していたけど、プログラムが進むうちに緊張がなく、楽しく活動ができました。」などの感想があった。種差会場では、「今までやったことがない作業が意外に楽しく、わくわくしながら活動できました。ボランティアの皆さんには、色々声をかけてくださり、親身にサポートしていただいたのが嬉しかったです。」という感想があった。参加者は、支援団体職員やボランティアと一緒に野外炊事や創作活動等の多様な体験活動を通して活動することにより、他の班のメンバーやボランティアと交流することの楽しさやボランティア活動を通して働くことの大切さを感じながら、楽しい時間を過ごすことができた。本事業における体験活動は、参加者のコミュニケーション能力の向上を図る効果的な手段の一つでもあることから、今後も梵珠・種差両自然の家を活動の拠点とし、支援団体等と連携して参加者のコミュニケーション能力の向上を目的とした魅力あるプログラムを提供していく必要がある。

「若者の社会参加促進事業プランの実践」では、若者団体等に対し、事業を企画・実践するための仕組みや運営方法等を学ぶ研修会の開催及び事業実践を支援する1団体と、実際に事業を企画・実践する若者団体2団体の計3団体に委託し事業を行った。若者を中心とした団体による地域の素材や人財を生かしながら、地域の魅力を発見するモデルプランの作成や地域課題の解決を図る事業を行った。その結果、主催する若者団体の企画力・実践力・行動力の向上が図られた。

県総合社会教育センター

パワフルAOMORI！創造塾 1,096千円

【事業目的及び概要】

地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、地域を担う人財を育成するとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的として、講義・演習や企画・運営をする事業である。

【事業内容及び結果】

(1) 講座内容

回	期日	内容・講師
1	7/22 (土)	【開講式、オリエンテーション】 【講義・演習】「地域(自分)を知る、楽しむ、挑戦する」 講師 NPO法人ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子 氏
2	8/26 (土) 8/27 (日)	【活動紹介】「地域活動を通して」 紹介者 卒塾生(過去のパワフル参加者) 6名 【演習】「実践活動に向けて」 コーディネーター 町田 直子 氏
3	9/30 (土)	【講義・演習】「地域のよさを伝えるヒント～受信者の立場から」 講師 青森朝日放送ディレクター (株)トラストネットワーク青森事業部主任 山内 さおり 氏 【実践活動】「実践活動に向けて」 コーディネーター 町田 直子 氏
4	10/21 (土)	【講義・演習】「地域活動のやりがいと楽しさ」 講師 フリーランスタレント 平沼 日菜子 氏 【演習】「研修成果に係る発表会に向けて」
5	12/2 (土)	【発表】「研修成果に係る発表会」 講評者 町田 直子 氏 【閉講式】
実践活動	11/25 (土)	【実践活動】「一できた！を応援ーちやれんじラボ」 於 八戸市種差少年自然の家

(2) 場所

県総合社会教育センター

(3) 参加者

塾生 17名

内訳：(年代別) 10代1名、20代6名、30代2名、40代5名、50代3名

(地域別) 東青地域9名、西北地域2名、中南地域3名、上北地域1名、三八地域2名

(職種別) 会社員・自営業8名、公務員3名、学生4名、その他(主婦等)2名

【成果と課題】

幅広い年齢層、県内各地域、様々な職種からの参加により、地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、育成した人財相互のネットワーク形成を促進することができた。また、講師1名には、年間を通して講義や演習、実践活動に関わってもらったことで、参加者の個性に応じた人財の育成に努めることができた。参加者の各講座満足度(講座終了後のアンケートにおいて「満足」「やや満足」を選択)は、すべての講座において100%であった。

第2回講座の活動紹介では、活動紹介者の卒塾生は7名であり、参加者は発表を聞く内容だったため、

地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進するには至らなかった。今後は、参加者が主体となり卒業生が多く参加できる交流の場を設けていく。

第5回講座の研修成果に係る発表会では、講座終了後の地域活動を具体的に考えている参加者は6名であり、地域活動の実践にはうまくつながっていないことがわかる。今後は、講座終了後の地域活動実践に向けてアクションプランを考える時間を演習内で確保するなど、講座内容を見直す必要がある。

地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業 701千円

〔事業目的及び概要〕

地域のこどもたちの望ましい職業観や人生観を育むことを目的として、学校・地域住民・企業・NPO・各種団体等の関係者が相互に理解を深め、キャリア教育推進に向けた体制を整備するための研修を行う事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 学校と地域・企業等をつなぐキャリア教育研修会
 - ア 期日・場所：下北地区 6/22(木) むつ市立むつ中学校 受講者 31名
 西北地区 11/7(火) 鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校 受講者 40名
 - イ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等
 - ウ 講師：認定NPO法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治 氏
- (2) 地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム
 - ア 期日：10/27(金)
 - イ 場所：県総合社会教育センター
 - ウ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員、一般県民等
 - エ 内容：あおもりキャリア教育応援企業の表彰式、表彰企業による近年の活動状況の報告、講演
 - オ 講師：一般社団法人 十勝うらほろ^{がくしや} 代表理事 近江 正隆 氏
 - カ 参加者：68名
- (3) 「我が社は学校教育サポーター」の運営全般
 - ア 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
 - 登録企業から報告された令和4年度実績の集計結果(令和6年2月調査まとめ)
 出前授業：1,305件、職場見学：529件、職場体験・インターンシップ：450件、
 その他：340件
 - 登録企業数：734社(令和6年2月現在)
 - イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録 13社
 - ウ 学校からの依頼に対する仲介 10件

〔成果と課題〕

「学校と地域・企業をつなぐキャリア教育研修会」は、各地区の教育支援プラットフォーム実行委員会と連携して、中学生が普段の学校生活では出会うことのない職業人講師と直接話ができる場を設定することができた。また、地域や企業が一堂に会してキャリア教育について意見を交わすことができ、地域全体でキャリア教育を考える機会となった。課題として、学校が会場になるため校内での十分な部屋数の確保や、半日日程で時間的余裕がなかったことが挙げられるため、来年度に向けて検討・改善していきたい。

「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」は、講演では、北海道浦幌町での取り組みを通し、改めて地域と協働することの大切さやキャリア教育の在り方等を考えることができ、参加した地域活動の実践者やコーディネーターにとって、今後の活動への意欲を高めることができた有意義な機会となった。周知の方法や範囲について検討し、より多くの方に参加してもらえるようにしていきたい。

「我が社は学校教育サポーター」の運営は、今年度ホームページを見やすいデザインに変更し、登録企業等リスト検索サイトでは、新たに「交通費不要のみ表示・材料費不要のみ表示」の項目を追加し、使いやすいうように変更した。さらに、登録企業等がログインすることによる登録内容変更ができる新システムを構築し、登録企業等にIDとパスワードを振り分け、ログインをすることで企業等自身がいづでも登録情報を変更できるようにした。今後は、地域活動に関わる人財のネットワークを形成を促進するため、認知度を上げることや、ウェブサイトの活用方法について周知していく。

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 559 千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上を目的として、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人財育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) センター研修(全6回)

	実施日時	場所	内容	受講者数
第一回	5/11(木) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「生涯学習・社会教育概論」 講師:岩手県教育委員会 教育委員 新妻 二男 氏	39名
第二回	6/16(金) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「青少年体験活動の充実」 講師:國學院大學人間開発学部子ども支援学科 准教授 青木 康太郎 氏	25名
第三回	7/5(水) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「次代の地域を担う若者の育成」 講師:NPO法人「おむすび」 副理事長 大畑 伸幸 氏	21名
第四回	8/22(火) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「学ぶって楽しい」 講師:Mr. マサクこと工藤 貴正 氏 (※県民公開講座として実施)	39名
第五回	10/11(水) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「障害者の学びの機会充実に向け」 講師:ボランティアサークル「麦の会」 代表 若木 政人 氏	21名
第六回	11/1(水) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「社会教育関係職員の資質向上」 講師:岩手県生涯学習振興協会 事務局長 佐々木 勉 氏	10名

(2) 地区研修

	実施日時	場所	内容	受講者数
東青	5/18(木) 13:00 ～15:00	県総合社会 教育センター	テーマ:「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進」 講師:弘前大学 教育学部 講師 深作 拓郎 氏	25名
西北	9/22(金) 13:30 ～16:10	つがる市生涯 学習交流セン ター 松の館	テーマ:「地域と防災」 講師:一般社団法人 男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子 氏	22名
中南	8/29(火) 13:30 ～16:00	黒石公民館 (旧黒石市民 文化会館)	テーマ:「異文化共生」 講師:アイピーコンフィグ株式会社 取締役 リー ニョクペン 氏	42名
上北	5/31(水) 14:00 ～16:00	六戸町文化 ホール	テーマ:「持続可能な地域づくりに向けた、 生涯学習・社会教育関係職員の役割と人財の育成」 講師:日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹 氏	65名
下北	9/26(火) 13:30 ～16:00	むつ合同庁舎	テーマ:「事業の企画力の向上」 講師:弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英 氏	16名
三八	10/4(水) 13:30 ～15:40	階上町道仏 交流センター	テーマ:「地域を活性化させるためのつながりづくり」 講師:いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹 氏	26名

[成果と課題]

センター研修では、県の方針と重点を受けた研修内容にし、様々な分野のものを設定したことから、受講者に、幅広い内容で研修を提供することができた。課題としては、令和4年度のアンケート(任意)を踏まえ日程を短縮したが、ほとんどの講座が座学だけで一方的な受け身スタイルでの受講となり、ネットワークの形成までには至らなかった。令和5年度のアンケート(任意)の結果、日程を確保できない等が多数を占め、業務の多忙化のため受講できないことも分かった。次年度は、内容の充実を図り、より参加しやすいものとするため、開催方法等の一部変更し、新任職員や中堅職員・管理職の方が、それぞれの経験年数等に応じて、効果的に学ぶことが出来るよう工夫する必要がある。

地区研修では、各地区の担当者や講師と打合せを綿密に行い、各地区のニーズに合った形で、地域課題の把握と課題解決に向けた研修を行うことができた。課題としては、他地区の方が受講できるようにオンライン配信も併用して実施したが、機器トラブル等により会場受講者に対し、確実に研修内容を補償できない場合があった。また、地区によって会場の施設の事情が異なるため、それぞれの会場におけるネット環境の確認や準備作業等、オンライン配信のための労力負担が非常に重かった。次年度は、受講者の研修内容を確実に補償するため、令和6年度はオンライン配信を行わない予定である。オンライン配信の取り止めにより生じた時間を、講座の資質向上につなげていきたい。

(3) 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

県生涯学習課

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 802 千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校(特別支援学校)の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

〔事業内容及び結果〕

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
県立青森聾学校	6～9月	7日 (7回)	手話講座	22名(124名)
県立盲学校	7月	1日 (2回)	視覚障害者への支援と点字入門	11名(18名)

〔成果と課題〕

特別支援学校が有する、より専門性の高い学校機能の開放を目的に特別支援学校のみで講座を開設している。受講者のアンケートでは、「とても勉強になった。ろう者の世界に積極的に参加していきたいと思った。」「視覚障害者について知ることができたことは、今後の日常生活に生かせると思います。」などの声が寄せられ、講座の満足度は高かった。

令和6年度には本事業と特別支援学校における家庭教育支援事業を統合し、特別支援学校における障がいに関する理解促進事業となる。実施方法等について、今後も引き続き各学校と相談・確認しながら実施していく必要がある。

障害者の生涯学習支援事業 1,014 千円

〔事業目的及び概要〕

特別支援学校卒業生の自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障がい者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

(1) 社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第二養護学校	5	16	230名	情報交換、レクリエーション、ボウリング教室、スポーツ体験、会報の発行
県立青森若葉養護学校	1	6	15名	体験を広げる校外学習(入級生、職員、地域の方との交流)
県立青森第一高等養護学校	1	2.5	72名	めいせい祭参加(在校生、卒業生、保護者、職員との交流)
県立青森第二高等養護学校	3	15	166名	情報交換、レクリエーション、学校祭参加(展示及び模擬店見学、作業体験)、ボウリング
県立盲学校	1	4	2名	学校祭参加(発表の観賞、運営の手伝い)
県立浪岡養護学校	2	4	19名	同窓会、二十歳を祝う会
県立弘前第一養護学校	3	6.5	85名	会員相互の近況報告、動画鑑賞
県立弘前第二養護学校	1	3	32名	フラワーアレンジメント教室
県立八戸第一養護学校	1	3	11名	高等部祭見学
県立八戸第二養護学校	1	3	117名	卒業生スポーツ交流
県立八戸盲学校	2	8	20名	箏教室、スポーツ体験活動(卓球バレー体験)

県立森田養護学校	3	9	118名	金魚ねぶた作り、社会参加学習、森養祭参加
県立黒石養護学校	3	9	115名	レクリエーションスポーツ、映画観賞、学習発表会
県立七戸養護学校	2	9	55名	同窓会レクリエーション、成人を祝う会
県立むつ養護学校	4	10	170名	卒業生のお知らせ、卒業生スポーツ交流会
県立八戸高等支援学校	1	4	50名	同窓会、近況報告
合計	延べ回数 34回 延べ時間 112時間			参加者数合計 1,277名

(2) スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内容
7/9(日)	県立黒石養護学校	33名	レクリエーション的な運動
7/30(日)	県立青森第一高等養護学校	30名	ボッチャ教室
11/25(土)	県立青森若葉養護学校	22名	スポーツ交流会
12/16(土)	県立青森第二養護学校	34名	スポーツ体験会
合計	開催回数 4回	参加者数合計 119名	

[成果と課題]

障害者の生涯学習支援事業は、卒業生が就労先での様子や卒業後の生活について近況を報告する場となっていることに加え、卒業生に就労や福祉、健康管理等の実生活に活用できる生きた情報を提供する場ともなっている。卒業生の卒業後のつながりや生きがい等を支える役割を担っているという点で、この事業は重要な役割を担っている。また、スポーツ体験交流は、体を動かす機会が少ない卒業生にとって、主体的に運動することができるよい機会となっている。

今後も、実施方法について各学校と相談・確認しながら、事業を実施できるように進めていく必要がある。

県総合社会教育センター

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 987千円

[事業目的及び概要]

県民の誰もが、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べるeラーニング教材を配信するため、各種学習教材の管理を行うとともに、配信に要するサーバ機器等を維持管理する事業である。

[事業内容]

(1) インターネットによるeラーニング学習教材の配信

ア 元気青森人 PowerUp コンテンツ	計	92本	(アクセス件数：305件)
(ア) はたらく心		92本	
イ あおもり学インターネット講座	計	21本	(アクセス件数：892件)
(ア) あおもりエトセトラ		6本	
(イ) 青森県の先人		1本	
(ウ) 青森県の山		7本	
(エ) わがふるさと		7本	
ウ あおもり子育てネット	計	39本	(アクセス件数：5,263件)
(ア) 子育て動画		39本	

(2) サーバ機器等維持管理

[成果と課題]

eラーニングサイトのセンターホームページへの統合に伴う移行期間を経て、eラーニングサイトで使用していたドメインを廃止するとともに運用サーバを統合することで、事業運営の効率化を図った。また、前述の理由から、令和5年度末をもって当事業を学習情報の収集・提供事業に統合し、今後は学習情報の収集・提供事業の一環として、eラーニング教材の配信による県民への学習機会の提供を継続することとした。

学習情報の収集・提供事業 7,343 千円**〔事業目的及び概要〕**

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、インターネットにより県民へ提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

〔事業内容〕

(1) 学習情報の収集・提供

4 情報(学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材)の収集・提供

○登録データ件数	学習機会情報	1,999 件
	指導者人材情報	138 件
	団体・サークル情報	145 件
	視聴覚教材情報	6,169 件
	計	8,451 件
○ありすネットアクセス回数	学習機会情報	1,470 回
	指導者人材情報	457 回
	団体・サークル情報	663 回
	視聴覚教材情報	340 回
	計	2,930 回

(2) サーバ・パソコン機器等維持管理

学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備

〔成果と課題〕

県民の生涯学習活動を支援するため、学習情報提供サイト「ありすネット」を運用し、インターネットを通じて広く県民へ様々な情報提供を行った。

今後は、ありすネットの活用についての更なる周知や、蓄積情報の充実などに加え、元気青森人を創造するeラーニング推進事業から引き継いだeラーニング教材の配信による県民への学習機会の提供を行うほか、コンテンツの充実を図っていく必要がある。

ボランティア関係機関職員養成講座 136 千円**〔事業目的及び概要〕**

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的とした対話・参加型の講座を開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 期日：7/7(金) 13:00～15:30
- (2) 場所：県総合社会教育センター
- (3) 対象：あおもり県民カレッジ連携機関、NPO、ボランティア関係団体、ボランティアに関心のあ
る高校生・大学生、一般県民等
- (4) 受講者数：会場受講 21 名、オンライン受講 119 名、計 140 人
- (5) 事業内容

- ア 講 義 「今だから、ボランティアそもそも論」
講師：大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長 永井 美佳 氏
- イ 事例発表 ひろさきボランティアセンター ボランティア支援員 鶴見 智之 氏
NPO法人日本人材発掘育成協会 事務局長 大鷹 依子 氏
学生団体レスタ 前代表 須藤 優海 氏

〔成果と課題〕

アンケート記述から「これからも継続してボランティアに参加したいという気持ちを抱いた。」「青森でもボランティア活動が盛んであることに気がついた。」「人と人とのつながりで地域が明るくなるようなボランティア活動を行いたい。」等、今後のボランティア活動への意欲向上に繋がった。また、青森県社会福祉協議会と共同開催し、ハイブリット型の受講形態で実施したことにより、県内各地にサテライト会場ができ、広域学習ができた。

課題としては、受講者の所属に偏りがあったため、各市町村教育委員会及びNPO活動担当課と連携

しNPO、ボランティア関係団体等の多岐に渡る所属の方々にも参加を促したい。本県のボランティアの現状を学ぶことで、それぞれの市町村でできること、自分の立場でできることを考えるきっかけとしたい。

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 516 千円

〔事業目的及び概要〕

16mm フィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともに、その活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) 生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
- (2) 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
- (3) 全国視聴覚教育連盟への加入
- (4) 視聴覚教材の購入 6 本
- (5) 視聴覚教材のデジタル化業務 222 本

〔成果と課題〕

フィルム劣化対策剤等を導入し、16mm フィルム保存環境の整備を行った。また、県が作成した資料を中心にした保管VHS教材のデジタル化を継続して行い、著作権の許諾を受けているものについてはデジタル化が完了した。

令和5年度以降、16mm フィルムと視聴覚機器の貸出については、県民の学習環境の変化や、映写機保有数の観点等から、貸出業務を令和5年度末で終了する。同時に、県内各市町村ライブラリーからの16mm フィルム及び機器の移管要望の受け入れも終了する。

今後は、ライブラリーとして保有する教材の適切なストック量を検討しながら、必要に応じて整理をしつつ、教材や機材の活用方法について検討していく必要がある。

あおもり県民カレッジ運営業務

〔事業目的及び概要〕

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

〔事業内容及び結果〕

- (1) あおもり県民カレッジの運営全般
 - ① 学生募集
 - ア ポスター、チラシ(入学申込書)による募集
※募集チラシを更新、子どもカレッジコースの募集チラシを新たに作成し、各学校等に配布
 - イ イベント時にあおもり県民カレッジ(子どもカレッジ)コーナーを設置
 - ウ 各種講座・映画鑑賞会等の開催時に周知
 - エ 生涯学習情報誌「てのひら」、ホームページ等による周知
 - ② 学生対応
 - ア 入学受付(随時)
 - イ 学生数 29,729 名(新規 1,676 名)
 - 教養学習コース 25,682 名
 - 子どもカレッジコース 4,047 名
 - ウ 単位認定サービス
 - 認定証交付件数 268 件(教養学習コース 168 件、子どもカレッジコース 100 件)
 - 奨励賞交付件数 72 件(教養学習コース 28 件、子どもカレッジコース 44 件)
 - ③ 学友会活動支援(中南地区及び三八地区)
 - ④ あおもり県民カレッジ連携機関との連携・協力
 - ア 連携機関数：393 機関(体験施設 93 か所を含む)
 - イ 連携機関連絡会議の開催
県民の生涯学習活動と社会参加活動の活性化に向け、6 地区であおもり県民カレッジ連携機関の会議を開催し、地域キャンパス講座、生涯学習フェア、ボランティア活動支援等について意見

交換するとともに、連携機関を含めた出席者相互の情報共有の場とする。

地区	日時(令和5年)	会場	参加機関数
東青	5月24日(水) 13:30~15:30	県総合社会教育センター第1研修室	33
西北	5月26日(金) 13:30~15:30	西北教育事務所1C会議室	5
中南	5月31日(水) 13:30~15:30	中南合同庁舎本館2階会議室	13
上北	6月1日(木) 13:30~15:30	七戸庁舎1階大会議室	8
下北	5月30日(火) 13:30~15:30	下北教育事務所会議室	4
三八	5月29日(月) 13:30~15:30	三八合同庁舎会議室	11

ウ 教育事務所訪問により、あおもり県民カレッジの各地区の状況を説明

(2) 普及啓発事業

ア 生涯学習フェアの開催(10/7(土))

参加者：515名

主な内容 オープニング(青森大学三味線部による演奏)
あおもり県民カレッジ認定証交付式
あおもり県民カレッジ公開授業
公演(声優劇団「津軽カタリスト」による参加体験型ドラマリーディング)
学びと体験のひろば(ものづくり体験)
古本交換会
食彩ひろば

イ 子ども向けイベント

(ア)夏のこどもまなびフェスタの開催(7/29(土))

参加者：443名

主な内容 オープニング(油川幼稚園園児によるミュージックベル演奏)
巨大糸掛け曼荼羅のおひろめ
「みんなが先生！」ゼミナール
世界でたった一つの宝物をつくろう！
物語を楽しもう！
仲間と一緒に体を動かそう！

(イ)冬のこどもまなびフェスタの開催(2/23(金・祝))

参加者：553名

主な内容 ステージ発表(キッズチアダンス/青森市立篠田小学校合唱クラブ)
「みんなが先生！」ゼミナール
モノを大切に！(おもちゃ病院/絵本・児童書交換会)
体験・遊び(スノーランドで遊ぼう！/アイスクリームを作ろう！/青森市立新城
中学校生徒と一緒に遊ぼう！/タグラグビーを体験しよう！)
子どもカレッジ〇×クイズ

ウ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の作成・発行(年6回)

エ 映画鑑賞会開催(毎月1回)

オ ホームページ <https://www.manabi-aomori.com>、フェイスブック、インスタグラムによる情報提供

(3) 学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口、電話、FAX、郵便、メール等による学習相談の受付 相談件数：84件

イ 学習機会情報の収集及び提供

青森県学習情報提供サイト(ありすネット)への学習情報の登録 登録件数：1,637件

ウ マスメディア活用による情報提供

テレビ、ラジオ、新聞を通して、講座、イベント情報や展示内容について告知

(4) 学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座(県内6地区)の開催

- 開催数：計26回(東青4回、西北7回、中南4回、上北3回、下北3回、三八5回)
- 受講者数：延べ961名

(5) 社会参加活動支援

ア ボランティア講師による自主講座の開催 講座数：97講座、受講者数：延べ577名

- 講師登録数：126名

イ まなびサポーター(各種講座やイベントにおける運営ボランティア)の登録・活動奨励

- 登録者数29名(内高校生14名)
- 延べ活動者数：141名

ウ イベント時における高校生・中学生ボランティアの活動奨励

- 延べ活動者数：113名
- ボランティア活動証明書の発行

[成果と課題]

3年ぶりに6地区で連携機関連絡会議を開催し、各連携機関のニーズや要望を収集することができた。

生涯学習フェアや子ども向けイベントでは、連携機関等によるブースの設置により、学ぶこと・体験することの楽しさを伝えることができた。また、あおもり県民カレッジについて普及啓発ができた。

カレッジ学生数は毎年増加しているものの、実態にそぐわない側面も見受けられるため、今年度は名簿上「100歳以上」の学生に継続意思調査を実施した。今後も継続的に年齢層ごとに継続意思調査を実施する予定である。

学習機会提供事業では、地域キャンパス講座、ボランティア講師による自主講座等の開催数が、コロナ禍以降、持ち直しつつあるものの、さらに増やすよう努力したい。また、内容についてもSDGsの目標に即した内容としていく。

インフォメーションプラザありすの運営

[事業目的及び概要]

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスの業務を行っている。

[事業内容及び結果]

- (1) 窓口対応時間 9:00~19:00
- (2) 視聴覚教材貸出サービス
- (3) ポスター、チラシの配架
- (4) 学習成果の展示

ア 階段ギャラリー、コリドー展示室、2階展示ギャラリー「画伯のたまご」、ギャラリーありす、1階ロビー等を活用して、多様な作品を展示した。

イ 季節ごとの館内装飾と展示

[成果と課題]

インフォメーションプラザありすの利用者数は、毎年延べ約10,000名程度で推移している。ロビーのラーニングスペースの利用者数は年々増加傾向にあり、今年度は延べ6,247名が利用した。ありす内も含め、個人の学習スペースとして定着してきているものと考えられる。

展示スペースについては、所内各スペースの展示内容を区分し、それぞれに特徴ある作品を展示するようにしている。また、1階ロビーに、新たにSDGsの啓発コーナーを設けた。

県立図書館

読書バリアフリー推進事業 1,612千円

[事業目的及び概要]

視覚障がい者等さまざまな障がいのある方が図書館をより利用しやすい環境に整備することを目的として、大活字本やデージー図書等のアクセシブルな書籍の購入や拡大鏡等の読書バリアフリーのための機器・用具を整備する事業である。

[事業内容]

- (1) アクセシブルな書籍の購入及び新しい用具の整備
- (2) 耳マーク及び補助犬マークの導入

[成果と課題]

図書館バリアフリーサービスの利用促進を図るため、より広く県民へ周知していく必要がある。

近代文学館 特別展開催事業 1,796 千円

[事業目的及び概要]

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

- (1) 名称：特別展「あおもりのえほん」
- (2) 会期：7/1(土)～10/9(月・祝)
- (3) 内容：展示、特別展イベントを実施する。

○展 示 三戸町出身の漫画家・馬場のぼるによる「11 ぴきのねこ」シリーズをはじめとして、作家や児童文学者、漫画家、芸術家など、様々な分野で活躍する青森県出身者が絵本を作成している。そのような「青森に関わりのある絵本」を紹介する展示を開催。

展示資料数：278 点

来館者数：3,749 名

○特別展イベント

特別展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、特別展のテーマに関連したイベントを開催。

ア 絵本の講演会

内容：講演「心とことばを育てる絵本の力 親子の時間を楽しむために」

絵本がこどもに与える影響や絵本の魅力を伝えるため、三戸町出身の漫画家・馬場のぼるの担当を 22 年間務めた、元こぐま社編集長の関谷裕子氏による講演を実施した。

講師 関谷 裕子 氏(元こぐま社編集長)

日時：7/29(土)14 時～15 時 30 分

場所：県立図書館集会室

参加者数：31 名

イ 劇場アニメ「11 ぴきのねこ」上映会

内容：昭和 55 年に公開された劇場アニメ「11 ぴきのねこ」(16mmフィルム)の上映会。

日時：7/30(日)14 時～15 時 30 分

場所：県総合社会教育センター大研修室

参加者数：111 名

ウ 「あおもりのえほん」おはなし会

内容：稲葉千秋氏による絵本「11 ぴきのねこ」の読み聞かせと、青森南高校 JRC 部によるオリジナル絵本の読み聞かせを交え、「あおもりのえほん」について紹介した。

出演 稲葉 千秋 氏(青森朝日放送アナウンサー・三戸町ふるさと応援大使)
県立青森南高等学校 JRC 部

日時：8/6(日)14 時～15 時

場所：県立図書館集会室

参加者数：35 名

[成果と課題]

幅広い年齢層が興味を持てる展示内容を設定し、関連イベントとして高校生による文学館オリジナルキャラクターを題材とした「絵本の作成」や、テレビ局アナウンサーによる「読み聞かせ」などを企画した。広報活動では幼稚園や保育園・こども園、小学校へのポスター送付を行うなどした。結果として多くの家族連れの手来館に結びつき、特別展の観覧者数は 3,749 名となった(昨年度 811 名)。幅広い年齢層や家族連れの手来館が定着していくように、今後も魅力のあるテーマの設定やイベントの企画を継続し

ていくことが課題である。

近代文学館 企画展開催事業 466 千円

〔事業目的及び概要〕

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

〔事業内容〕

(1) 名称：企画展「あおもり文学食堂」

(2) 会期：12/7(木)～3/10(日)

(3) 内容：展示、企画展イベントを実施する。

○展 示 生活の中に必ずあるものが食であり、文学作品にも少なからず食事に関わる場面が登場する。「食」という観点から作品や作家を捉えることで、その作品や作家の背景となっている「生活」や「郷土」、「食文化」といった、本質的な部分を垣間見ることができ。「食」という切り口から青森に関わる作品や作家を紹介する展示を開催。

展示資料数：282 点

来館者数：2,388 名

○企画展イベント

企画展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、企画展のテーマに関連したイベントを開催。

○あおもり文学ゼミ

内容：講演「あおもり文学食堂」

青森県ゆかりの作家の食についてのエピソードなど、企画展の内容について詳細に解説。

日時：1/7(日)14時～15時

場所：県立図書館研修室

参加者数：17 名

〔成果と課題〕

文学に詳しくない人でも興味を持てるように、誰もが身近な「食」をテーマとし、郷土の食文化に触れながら青森文学を知ってもらうきっかけになるよう企画した。ポスター・チラシのデザインは昨年度に引き続き県立高校の生徒によるもので、より目を引くものとなった。展示にはタブレット端末2台を配置し、より多くの資料を見られるようにした。結果として幅広い年齢層の来館に結びつき、企画展の観覧者数は2,388名となった。

特別展同様、幅広い年齢層や家族連れの手来館が定着していくように、今後も魅力のあるテーマの設定やイベントの企画を継続していくことが課題である。

アウトリーチサービス推進事業 428 千円

〔事業目的及び概要〕

心身に障がいがあるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

〔事業内容及び結果〕

○登録者数：18名(うち新規登録者数4名)

○貸出：件数158件／冊数835点

〔成果と課題〕

県立図書館に直接来館することが難しい利用者に対して、サービスを提供することができた。利用者が希望する資料が本館にない場合の対応が難しいことが課題となっている。

(4) 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

県生涯学習課

生涯学習推進基盤整備事業(生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会) 1,048千円

〔事業目的及び概要〕

生涯学習振興法(生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律)の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

〔事業内容及び結果〕

(1) 生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

(2) 青森県生涯学習審議会

第16期青森県生涯学習審議会

○委員：15名

○任期：2年(R4/10/19～R6/10/18)

○諮問：「障害者の生涯学習の推進方策について」

○審議事項：1「障害者の多様な学習活動の充実」

2「障害の有無にかかわらず共に学ぶ場づくり」

3「障害者の学びを推進するための基盤の整備」

○会議等の概要

第3回審議会 5/25(木) 総合調査研究の結果報告、実地調査について

実地調査 6月下旬～8月中旬

・一般社団法人HachinoheClub(八戸市) 6/24(土)

・はまなす青年教室(青森市中央市民センター) 6/25(日)

・NPO法人TetoCompany みんなのいえカラフル(大分県) 7/3(月) ※オンライン

・青森アール・ブリュットサポートセンター(五所川原市) 7/6(木)

・俊文書道会(八戸市) 7/8(土)

・障がい者支援WEBポータルサイト(三沢市障害福祉課) 7/13(木)

・認定NPO法人トラッソス(東京都) 7/14(金)

・NPO法人「難病障がい児者を支えるみなのかい」(弘前市) 7/19(水)

・NPO法人のらんど「見沼田んぼ福祉農園」(埼玉県) 7/21(金)

・しょうがいしゃ青年教室&喫茶わいがや(東京都国立市公民館) 7/21(金)～7/22(土)

・障害者の生涯学習推進事業(秋田県大館市生涯学習課) 8/20(日)

第4回審議会 9/19(金) 実地調査の結果報告、答申骨子案について

第5回審議会 12/14(木) 答申骨子案の構成、方向性について

〔成果と課題〕

本県の現状・課題及び実地調査の結果を踏まえた上で、「障がい者のニーズに応える生涯を通じた学習活動の充実」「障がい者の学びに対する社会全体の理解促進」「障がい者の生涯にわたる学びを支える体制の整備」を柱立てとする推進方策について審議いただいた。今後は、答申の成案について審議いただき、令和6年8月に答申が提出される予定である。

生涯学習・社会教育総合調査研究事業 1,145千円

〔事業目的及び概要〕

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・

社会教育支援体制に関する調査を行う。

〔事業内容及び結果〕

県内の子どもの読書活動の状況及び小・中・高等学校及び特別支援学校における読書活動推進に関する現状を把握し、今後の施策の企画立案に資することを目的として調査を実施する。

○調査テーマ：「子どもの読書活動推進に関する実態調査」

○調査対象：①県内の小学校5年生、中学校2年生、高校2年生 約3,000人

②県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 484校

○有効回答：①小学校5年生 1,133人、中学校2年生 1,035人、高校2年生 943人

②県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 435校(回収率：89.9%)

○顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱する。

青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏

青森中央短期大学食物栄養学科 講師 本間 維 氏

○報告書：130部を印刷し関係機関に配付した。

〔成果と課題〕

今回の調査では、1か月に本を1冊も読まないこどもの割合(不読率)は、小学校5年生が12.2%、中学校2年生が25.9%、高校2年生が55.6%となっており、同様の調査の全国平均を上回っていることがわかった。本を読まなかった理由としては、すべての校種で「音楽、動画、ゲームに時間を使うから」が最も多く、次いで「特に読みたい本がないから」が多くなっている。

今後は、調査研究の成果を子どもの読書活動推進のための施策・事業に生かしていく。

青森県社会教育委員の会議の運営 116千円

〔事業目的及び概要〕

社会教育法第17条に基づき、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う。

〔事業内容〕

(1) 青森県社会教育委員の会議

第36期青森県社会教育委員

○委員：8名 ※青森県生涯学習審議会委員との兼務

○任期：2年(R4/10/19～R6/10/18)

○調査研究テーマ：「障害者の生涯学習の推進方策について」

※青森県生涯学習審議会の審議テーマに基づき、必要に応じて調査研究を行う。

○会議等の概要

第2回青森県社会教育委員の会議 11/2(木) 重点審議事項に係る答申骨子案について

〔成果と課題〕

第36期社会教育委員の会議では、本県の障がい者の生涯学習に係る課題「当事者のニーズに応える学習の場・機会をいかに創造していくか」「学校在学中から卒業後の『学び』へのシームレスな接続をいかに実現するか」「福祉分野、労働分野、NPO等と連携した取組をいかに進めていくか」などについての意見交換を行い、推進方策等について検討した。今後は重点審議事項に係る答申案(素案)について審議する予定である。

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県社会教育行政」の作成 265千円

〔事業目的及び概要〕

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

〔事業内容〕

(1) 市町村の社会教育行政調査

(2) 市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査

(3) 「令和5年度青森県社会教育行政」の作成配付(550部作成予定)

〔成果と課題〕

県及び市町村における社会教育事業の概要・実績、社会教育行政の現状等について取りまとめ、社会教育行政関係者に広く周知した。

社会教育主事有資格者育成派遣事業 619 千円**〔事業目的及び概要〕**

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

〔事業内容〕

- 派遣研修：社会教育主事講習(秋田大学)
- 研修期間：7/24(月)～8/18(金)
- 派遣者数：小学校教員2名、県教育委員会指導主事1名

〔成果と課題〕

東青地区及び上北地区の小中学校教員、西北教育事務所の指導主事が社会教育主事講習を修了し、社会教育主事有資格者となった。社会教育主事を増やすことで、今後さらなる社会教育体制の充実を図っていく。

生涯学習専門講座派遣事業 184 千円**〔事業目的及び概要〕**

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

(1) 社会教育主事専門講座

研修期間：10/12(木)～10/13(金)、10/16(月)～10/17(火)
派遣者数：県生涯学習課 社会教育主事1名

(2) 地域教育力を高めるボランティアセミナー

受講者なし

※(1)、(2)ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

〔成果と課題〕

派遣された者は、他県の事例を学び情報交換することで、業務に役立てることができた。講座は、演習や事例研究が多く設定されていることから、今後も専門的教育職員を育成するため、引き続き派遣し、最新の知見が得られるように努める。

社会教育主事等一般研修 159 千円**〔事業目的及び概要〕**

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

〔事業内容〕

- 研修会の開催：第1回 4/26 県総合社会教育センター
- 第2回 11/27 県総合社会教育センター
- 第3回 2/29 県総合社会教育センター

〔成果と課題〕

担当事業についての情報交換や講師による講義等を通じて、施策の方向性や取り組むべき重要課題、これからの社会教育の在り方とそれを担う職員に求められる資質等について学び、職員間で共通理解が図られた。

在学青少年育成費補助事業 359 千円**〔事業目的及び概要〕**

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年(高校生)を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

〔事業内容〕

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

期日	場 所	参加生徒数	内 容
10/5(木)	県立十和田工業高等学校	360名	演題 「原始時代から原子時代へ ～青森県で文明の歴史を考えよう～」 講師 星槎大学 特任教授 山脇 直司 氏
	県立三本木農業恵拓高等学校	572名	
10/30(月)	県立弘前工業高等学校	616名	演題 「夢を持って高校生活を」 講師 落語家 桂 歌若 氏
	県立尾上総合高等学校	168名	
11/1(水)	県立青森北高等学校	578名	演題 「生活と金融と経済」 講師 株式会社オープンハウス顧問、プロクレアホールディングス社外取締役、東京経済大学非常勤理事 三國谷 勝範 氏
	県立青森中央高等学校	573名	

〔成果と課題〕

本県にゆかりのある著名な講師による、職業観や人生観、命の大切さ、新しい分野に挑戦し続ける姿勢の大切さなどをテーマとする講演は、高校生にとって、これから直面する様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人として自立していくための多くの示唆を与える機会となっており、今後も引き続き助成を継続していく必要がある。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業(再掲)

(P54 (2)活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載)

県総合社会教育センター

生涯学習・社会教育関係職員研修講座(再掲)

(P90 (2)活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載)

ボランティア関係機関職員養成講座(再掲)

(P94 (3)生涯を通じた学びと社会参加の推進に掲載)

県立図書館

県立図書館資料整備 64,997千円

〔事業目的及び概要〕

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的に、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

なお、令和3年度から電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入している。

〔事業内容及び結果〕

(1) 受入資料数(R5/4/1～R6/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	18,533冊
(うち電子書籍)	(566冊)
市町村等協力用	4,612冊
近代文学館	9,283冊
合計	32,428冊

(2) 図書館利用状況 (R5/4/1～R6/3/31)

図書館利用者数	226,331名	
近代文学館利用者数	39,283名	
年間利用資料数	一般閲覧室	145,263冊
	児童閲覧室	58,082冊
	オンライン貸出	11,492冊
	新聞未合冊等	17,978冊
	アウトリーチ(全体の内数)	(835冊)
	市町村一括(協力)貸出等	44,713冊
	計	232,815冊
年間登録者数	新規登録者数	2,446名
	総登録者数	8,685名

※アウトリーチサービス：
身障者等への配本サービス。

※それぞれの登録者数には、
アウトリーチ登録者数を含む。

(3) 市町村立図書館等への貸出の状況 (R5/4/1～R6/3/31)

市町村一括(協力)貸出等	44,713冊	
相互貸借(県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	3,473冊
	県内大学等図書館	121冊
	県外公共図書館・大学図書館等	579冊
	計	4,173冊

市町村立図書館等職員研修事業	199千円
----------------	-------

[事業目的及び概要]

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を目的に、初任者研修、基本研修及び学校図書館支援研修等を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために図書館相互協力事業等担当者会議を開催する事業である。

[事業内容及び結果]

(1) 図書館相互協力事業等担当者会議

ア 開催日	5/18(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 参加者	市町村立図書館等職員 29名
エ 内容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、情報交換会

(2) 初任者研修

ア 開催日	6/7(水)～6/8(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員 20名、学校図書館業務担当職員 13名 2日目：市町村立図書館等職員 19名、学校図書館業務担当職員 9名
オ 内容	図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための研修 「講話、関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題、資料管理、読書バリアフリー法関係の取組等、児童サービス、グループワーク」

(3) 基本研修

ア 開催日	7/12(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 38 名、学校図書館業務担当職員 6 名、その他 2 名
オ 内容	テーマ「レファレンス・サービス基礎のきそ～利用者の知りたいココロに応えるために～」
カ 講師	くにたち中央図書館 藤村 せつ子 氏

(4) 市町村立図書館等職員ステップアップ研修兼学校図書館支援研修

ア 開催日	11/30(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員 23 名、学校図書館業務担当職員 5 名、その他 5 名
オ 内容	テーマ「誰もが読書ができる社会を目指して」
カ 講師	専修大学 教授 野口 武悟 氏

[成果と課題]

図書館相互協力事業等担当者会議では、県立図書館が実施している市町村立図書館等への支援事業の活用の促進と、県立図書館と各市町村図書館等及び各市町村図書館等間の連携が図られた。

初任者研修では、新たに図書館に勤務することとなった市町村職員等が、図書館の業務やサービスの基本的なことについて学び、各館での業務に必要な知識・技術習得の機会となった。

基本研修では、図書館職員がレファレンス・サービスを行う際に必要な基礎知識や利用者目線でのサービス点検の必要性等について研修する機会となった。

ステップアップ研修では、社会の変化に応じた新たな課題等に対応するテーマを取り上げて実施することにより、学校図書館の利用促進と市町村立図書館等へのサービス充実に繋がった。